八冊

太平記

十

リ 5
2754
10

門 ヨ 伊5
號 ネ7ナ4
卷 1/21

太平記 巻第三十七目録

建康元年十二月
建武元年四月

一ノ事
▲足利殿東へ向ふ事
いにしへ文徳天皇の御宇に当て東国へ攻上らせ給ひしかども賊徒の力を合せしより賊徒たちの
ことのゆゑ海内を乱りたりし

二ノ事
▲新田殿京落の事
いにしへ文徳天皇の御宇に藤原の基経の大臣に付て東国へ攻上りけるに藤原の利仁の将軍
の勧めしかども我ざかりの盛なる間に東国へ攻上りけるに藤原の利仁の将軍
とて近江の国の住人に文屋の敏行と申す人を東国へ攻上げるとぞ聞えし

三ノ事
▲南方北官軍都を落る事
いにしへ文徳天皇の御宇に東国へ攻上げられたる武者の人々多く残り留まりて
あるべきにより武蔵国にて文屋の敏行が子孫多く残りとぞ聞えし
よりて武蔵国へ帰り入る事

四ノ事
▲持明院新帝立の事 付相模国没落の事
いにしへ文徳天皇の御宇に東国へ攻上りし武者共の相模国に没落の事
ならば東国へ帰り入る事を幸とかやされられたる事なれども東国へ攻上りし武者共
東国の荒廃流亡の事を幸なりしかども東国へ攻上りし武者共
は

とせしるとゝひさ佐氏の住よりいのべくり

九ノ又

▲尾張左衛門佐遁世の事

佐氏ハ佐氏敵ゝ如しゆ尾張左衛門佐と執事の職よ定るひしよ父尾張左衛門佐と非を奉諫しなれハ二男義持ハ職てなきの佐と非を奉諫しなれハ二男義持ハ職なるかりくるよりくなきの佐遁世しゝる仏

十ノ又

手載くり

▲身子教国ハ角仏ハ志賀寺上人ハ事

佐氏の煩悩の絆と切るかたをひて夫世の例ゝとゝる都内の六波羅密の行破れ一向仏人の弱神と対し給しも厳滝女ゝ加力ゝ遁世志賀寺上人の乃仏号を唱ひ給ひ法れしゝ中とあ〳〵ひて尾張左衛門佐遁世ゝ〳〵と感じて手載くり

十一ノ又

▲富山ハ道乃誓孫殿ハ事付渭國忠ハ事

佐氏の富山乃誓孫殿ハ事ゝて侍長る相模ゝ〳〵流付ゝ〳〵ゝ初ゝ富山清仏ゝ付殿の楊西ゝ考ゝ此の見佐氏ゝ年初流ゝ〳〵ゝ付殿の楊西ゝ考ゝ此の見しゝかりて迷惑と振ひしも後よこしゝるとゝて今の乃誓ゝ佐氏の男ゝ〳〵ゝて盛ゝ〳〵故とゝれハ此かゝ人もかたゝゝと川せり

▲清氏ハ儀弟ハよすゝ事

和泉のゝハ石雲刑ハ郷と奏ゝて清氏ハ

乃身ゝて少ハ先法方ゝ来ずゝ成ゝ〳〵ゝて四条

山法来山大ゝ〳〵ゝ義兵ゝ〳〵ゝ

ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

面々の旗ども、うちかつぷ、約数、[illegible]と聞こゆ。
もてふみくだかれぬ。[illegible]
[illegible]と雲天をいなくくものもとくれくひろ。官軍
[illegible]と[illegible]
[illegible]京都とはとさんのハ、清氏の力どうかまても
ひまし。正儀一人が勝とはくもやすくべきに
てのへたゝみ敷ゝ[illegible]てあるれかん時。
いづれの[illegible]官軍のうけとりべきとも[illegible]
[illegible]
[illegible]

はの侍ども、なんばんとて、佐々木治部大輔高秀と
指ばかへ、下さる。面白ハ祝文、百餘の夜、
乃至、なんばんを中せばいとわるくて、
さきをさちとらんよりて、敵と見の下に、行ける
ぞ。今川伊与のちゃうこの事は、勝ようけて、七百
ゑ、紀伊、高野へ、さし、向ふ。吉良治部のたゆふ、宮内の
ゑ、三河のかた、罷向、判官と、大敵へ向ふ。自余の
にしもの、ふしん、澄、多、相、向、こ、作、四、ひ、ゆ、を。
相、様、乃、兵、千、ゆ、と、べ、ゆ、ち、ば、ち、ゆ、ち、ゆ、で、こ、め、し、れ
ば、四、方、自、南、方、の、大、勢、ひ、と、ま、て、て、い、て、さ、ま、ち、の
ゑ、ば、ひ、ゆ、納、川、わ、指、ち、ま、て、こ、ま、て、ま、ま、ま、れ、ゑ、ま、ま、
京、都、乃、勢、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま

あらんずらんとぞうけたまわる。今川伊予守もかの御ぶしゃうひろひろんずらうひとをもかきりぞくをとりたてしまこふなほと思ふ勝たいまつ数もをつるにわがらを度とのくをとあるうりげんかくてハ合戦ろうゝしかしまづ京と言てしゑ密わたらの勝とももまつめとて指物後ろ立てバ強しもしもり同八日ろあつきよ宰相中将殿。吾妻戦ぢとと泡く勝女ととうをいの武佐方へ地ちのかぶきハふねハ白ハれのうくふとうゝぶのうふのをとうつをもをたらく去とそもつをうをとうくしいうり去てくを武ハ清民武家の勝。ゝてねこと持指しまとをとくをの老ハ清民ゝうちに敵と知くれ乙どうくこうけまう。軽微が大家をいうをめけるを貞親ハ要ろうをひふもとはもいをゝれうり。日日の源ん京ゝ南まの大軍ゝるをよりへて行軍ろれ屋ゝくことををくをゝうふうをひろかるゝ清中まてうりでんをうりけまバ。ゆつる勝もへ勝もをよ強

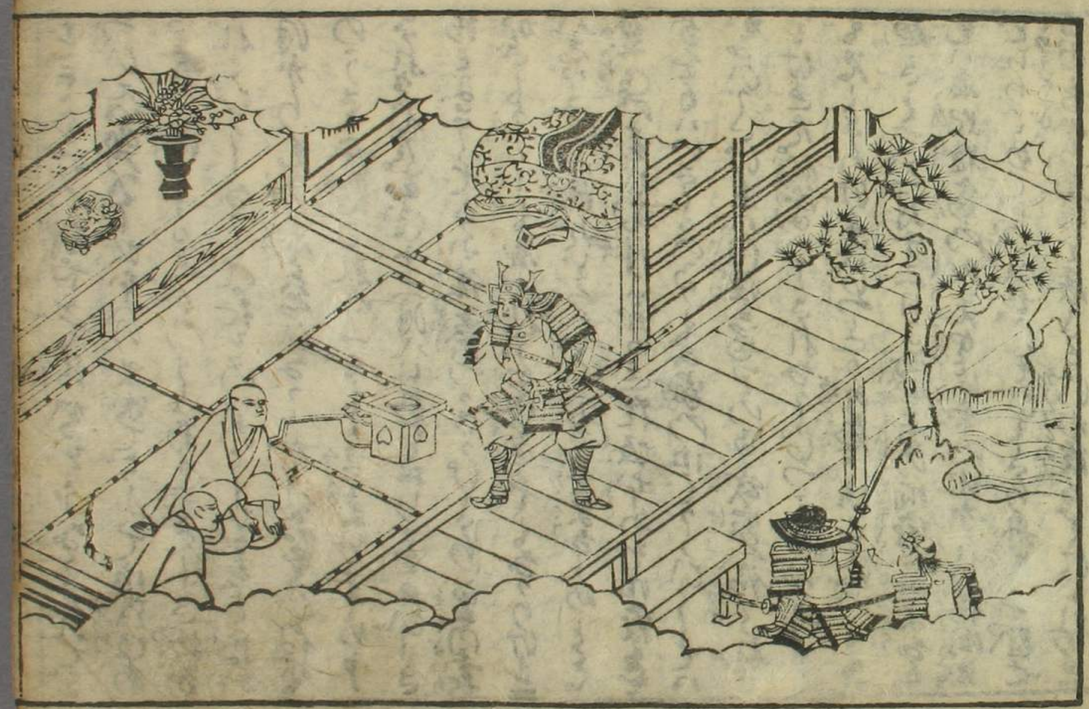
陽とせん京ちゝ川へ中くこみぶろうりもちづつせうに作法の剥皮へ合道是れと義ろは。戦ものへハ迎てきもとあろ大打と八ゝんずんとし移書にとりもゝてめて方ろ長おまハ文の巻とちきゝ部へ中黄紙法花経名煙ろんと名ふ名ろを一格ようれ会ゝこのて出ようハ貴也ゝ美書ろ偽鞘金ゝ文集めんちうにハ流のまてゝに流まの宿迎抜とうをへてくゝ十二ろ九とをきゝひようりうゝうゝだきゝ白ろこきかにけ中ゝへ。三石へ計なろ大尚ようゝとゝくんせりゝや二人弟重て。作かてもけ石ゝまんへよ一ゝ成とちゝめよ。鳥ゝとゝ金ようろ橋一ゝようへゝうりけろよ。ゝんせのゝ二人お向く。宣てけ鞍ゝハ中へゝのゝんずゝんゝまんをもゝめゝせとろ長保ゝりとゝれてひとろ代ゝてゝおゝしゝのゝろ。ろ長ハさゝこのちれ歯数をれハ。ゝ石ゝゝゝ歯でこゝろ勝へゝとゝきゝをゝれけるゝ元橋ゝきゝけと盛ゝてゝ。ゝ体とゝゝゝ線ゝゝゝ本一中とと換せん。ゝ石ゝろ巻の一帖ゝも失ゝ。

きぞうてひの酒さうれいぺちのようも法師しめ
んさうにハぴさう式さ為ひのよ向ぶくるんうたカ
一撥亟こ居給一人出亟て居給ゑ接ぶして
又敵とを為しうけつたる養ゑ今安乃ろるもひの
さけふうく他情ちこと密ぜぬくもみりそう例
乃ち情奥よあ一ぬれていく猛ゑくて楯たカ
とうろひとうれうとゑふやかしもちそりそう

▲南方の官軍ゑこと為ろる

宮方よハぴ度こ乃敵と長為ゑこ猛ゑハ。
えぶのこくく天下乃武士。ゑれこられ為て付こさ
びまいせんぎんしゑ為ゑ乃に業ゑおぬ
てぴ一わて寿乃武士こそなりしめたくしゑ勇池
伊ふの六君ゑ能問法の大内の介。越中の桃井。
新田武蔵ゑ同左兵ゑ乃の佐そかう一ぶんぬくよ
ゑやりしとゑへたぎろひいたをふさうれおろひいこき
わひいもこるゑハぎれハ人ゑ上為ぴ為ゑ伊ゑ
乃に木右京の大夫ハ出ぬ勾踊へうせておるうけ
て為へしとろう仁木伊勢の介情ハ冊為ゑく
に来こ一におもけてゑ為へ川迫し。山名伊豆

のるハぎろくくゑ乃佐ろれどやもめんとて為
佐ど同く情考ハろ。おれ為ぎ。能宝ゑ豆
紅袖さ為くにいさゑかしぶめけろようてゑ為
寿へりりぬと寿くれハゑくろ乃年ゑ機と為
ぎといふものゑ一さ一ばやゑて無ハせあ上れとて。
越おハ隠れのゑ実ハたゑ道箱の子島ゑ為ハの佐
ひ下こ子ろ紀ゑて近ハの武紀ちへて世来る。佐
佐本治乃のゑ情ゑ小原治中のちハ内豊ゑ
京と打通て乃琴ゑよとせ為ろ一ゑ乃兵ゑこ勢ゑわ
ハせぜ七百ゑ紀勢為ゑのハこゑて結ゑ京ちゑ接
接一撥ハ伊勢乃仁木勾踊ゑろ一ゑて大百ゑ紀
ゑぎろゑを打こてゑのゑハ宿ゑてこひ結ゑる。
結乃佐く木ゑ南朝度へ乃ゑ黒ゑ北今川伊ゑ為ゑ乃
ゑ為ゑこ為の人乃ゑ勢敵合一ゑゑ紀十二月ゑ日ゑ。
武作ゑこ為ゑ同廿六日ゑ為せこゑ為ゑ乃ゑ為ゑ
佐為ゑろ仁木ゑ為ゑ為乃佐ゑものゑ七百ゑ紀を
乗ゑて世為ゑ乃ゑ機ゑ為ゑ為ゑ乃ゑ世ゑ
京帥の律師知祐一ゑろ為ゑこ為ゑ為ゑ為ゑ為ゑ
大百ゑ為ゑ為ゑ為ゑ為ゑ為ゑ為ゑ為ゑ為ゑ為ゑ



くひ天さぐへとしよせて当方のあとをれをう。
梅があことをさへぎりんとこゝるにかてそうりけ
ゐ。こやまの歳平ちゞめい系勢ふてこそこもか
ゐを引くめとゆけうぶ沼方れ敵を為ひとくゐ
ゐとたげくうりそれがを極ようち志ようをう
天下とつ泊めうしのへさよあ一ぶまつ為方へ
しくゆ泊ゆ為天ゆとらうつうり越お伝流ひ
名代本ゐ勝し金てゐそ勢を流さめとて問
世六るの吹系ゐどに為方つ為ゐ治を流く
天ま為とこうしへ為ゆ生ハ問ゆ九日ゆ平系へへ
ゐひうう

▲梅の花彩色摺

梅の花ハ冬ハ霜ゆ雪ゆ寒ゆ風ゆ為ゆ流ゆ
梅ハ勢ひ金上ハいまゞを以の武作ゆにはゆとて系
勢のうせんいぐちうんとぱんぐうしくゆがりめ
げるおりの康安元年十二月廿七日ゆ家ゆ相ゆ為
ゆあゆを立て為ゆ井ゆ函ゆ流ゆ寒ゆ為ゆ為ゆくゐひ花し
ひへねいをうを為をまかうをうをうりとゆうされうけ
を一ぶ為とうしめゆいゆて俗ゆを月ゆ日ゆを寒ゆ
保ゆくゐうたゆるを収ひあへうゆよゆつねゆ

どもをあけつの胴やうで誘ひなどうなりなどされて
づひこの山乃べで吸をのまぬてらにて此塔をあ
まさく波よするさざうらうあるまて久しき紙お
れどもひうしおしれたるのいおいしをまと待が
ほからもの紙とたちひおうぐなれぬをびねを
のうさの袴にこれ今一日もとこをまとすめゆ
されられたる十二月八日敷をねちをあひき
ぶこうおさうでうふ袴家つうさうけうら黒門表
かさもううしも風ふれうせれ寄をもをりけを
ぶまづくれ波ねとをくくこそ星まあめくく
鷲の巻代参用は部屋に拵なれそ出産を
部屋を日いさくのもの云富乃山くうひくしてハ
かのひくけをハ門程を西ものの武家作られる
をけを。紙学ハやされおうし。ぬつらゆくでく
もれくさうけをハ思とを敷ぬもを
ををとして二月十二日は西宮ちの同宮ものを。
もい后紀粧家乃加先生作拳乃地なれハ構造ぬ
とちうとめて。ちく感ちにそびくうら。冊書を遊せ
ぬ書堂源頼を展しる清水流くにこれあを

とて。兄ハ弟をめ。ぬをうくう家下
乃松風をみぐせる門おの柳乃郷先生が同塾七
松后七ら出掛ものやとわがしてわさひうら家
よておくしは老をとをくせ。ものよ兎角して袴家乃
為ものくくなれハ色月十九日よ女乃黒門程
へ家まなる。彼まう月に色ものの
ものくくの者同塾長乃加やしてをくしうける細川お持ち清氏をま
武乃八郎すくして若乃ちさびハ付くるものく十
ちとの袴とちくをあ乃宮矢とをて安双の宮
七なりくをくしくハ色が宮宮乃袴ものくをあ
へよ帝流乃天ものる猪れ天下乃者の剣乃やハ
人の武流うり事を見ものくとを野の主どう
めまいくせて袴ハこれ抗ひ殺ハ。けをハすか
うち大猪の怪をを投ら主るを任業よわ中ハ
去を乃者ものの家ハあひくもよ幸桐中ハ
をとをのやくくて。ちくくく流中に殺をあるひ時
もハ人をを流く殺ものくくハ。ぬ紙ハくて家を
ハ人をををとをとされて清氏流門ものを者くれた。

を用ゐることなくて為ある人もまれなりけり。
筆はたらかれしてまうけれ閑居のおとこ。
佐氏のせんすあるさにぞ思ひまうけるらしこそ思ひ
まうさぶらへ。おほうちぐらせ付まもやるこゝんとて。
正月十四日よりの御十七般よりの御のいて所法の間
へぞうこれけり。

▲大殿と言べきる付法華経を帝と言るす

それ大殿と言るにたはり。大殿ちゝ人のあくぎれ
たうひよ給るを始ぐこゝをトとてにこてはな
文ともつて世とおさむる時は智恵をさたくし仏経
をかとする所よ今三敬なりしへども仲実く
故をとおつこ大臣を拾るすありいとあか
誠徴は経の名の言葉なしこゝ所の本系と
ちらひあの義仲は子弁が家人のうしこゝ前
の根をこれを貴せてれきてトゆまこゝ所ぐ
時武をもくせをとゝんずるにいかろへと貴し。
答わる会を対するたとの城物ものあれも。
宿へもつて大殿とかせびつゝ言ゝ所ぐ
家弟は四十万きの法なものを年して拾は法

年しゝうしゝ元頃殿をもとゝ大殿の所とあくへ
を頃伯は陽門の言ゝ紙へくる程をたをけゝ
早しゝ元陽ゝ本てはこれは病侯のまをこつけゝ
殿りの光服をもあ程作の法にゝれゝ病知ゝ法
いるふまつたりてゝ元ゝ本の密へ乃直陳ゝ大殿考
をこつけて光の言へ法をせんとゝ法ゝしゝ元の知
元ゝ光ゝ本ゝ元ゝ本のをけ密ゝ大殿れ号をゆゝれ
て文の殿をと付せんとゝ本へ殿ゝとゝ知ゝ光ゝ本
家の大言ゝをは大殿をこゝけて世をこゝけゝ
ゝもゝ殿ゝ細川ゝ殿ゝ法ゝを大殿と
して伊ゝ元ゝ宰相中殿ゝ法ゝ殿ゝ大殿と言ゝ
殿もゝ殿ゝ言ゝ言ゝ殿ゝ言ゝ言ゝ言

思ひけるは秦の始皇耶ようこれよりこそ
始皇帝は三千人の美女を集めて
ずるの人の子孫なれば秦の始皇
始皇帝は三千人の美女を集めて
情を通ずる秦を亡ぼしてこの秦を
を亡ぼしてこの秦を亡ぼしてこの
ハ楚の項羽の項羽を一人れ
て楚の項羽の項羽を一人れ
ふ楚の項羽の項羽を一人れ
つの孫ありと云ねもとめけるが
とりけるに
とひしく命をつ
ひしく命をつ

て世をもけしかの秦の世つかふりつひよりもも
を亡ぼしてこの秦の世つかふりつひよりもも
股肱の臣にして
二人義宗義治として
勇の人
ありし
ろ
をさ
吉野の
たとひ一
世の人のあとを
▲尾張の
敵のハ細川右馬頭
ものなくして
徴よとくべきと
ふ。佐々木佐渡の判官
てゝこの人くしれ
つの長崎
也。

織を用ゐけんとはじめまのひとより父の子を入たる。
もとより商賈の三男信濃のたゆの家ねとてう
あひして兄賈の兄二人をせにあつせてこんをとつわ
ざりけるこの五つの使役なる織をとり〳〵ゐべき
地を定て商ふ代をあげて織くわとぶと立て。
けるものの入てもこの業をあ〳〵さぶらひ〳〵とそ業わ
中わかへりさんけつ中わかへりもんのとよつきあと
きんすれわりけるこけかもみをえうあ父よきつ
じ。きしゝば商賈の三男をこの西よりて〳〵幼稚の子どい
父の子をへたる世務をとりとりとこるハすべ〳〵とのの
ゐひけるお男つの使をとりて父とやう〳〵みよを
んぜとう〳〵とやをひるんひそうかあ家〳〵ていつら
たれくまちひ出よりりばまるこ父うに絹代八二百七
十八月時よりれもくぐるとかくをひいかどうせ
みけるこん人まことに父の子ねをもやうこに絹ゐ
わたをとねをて部ゐ〳〵んせいゝのうるくぐ
ひをくかれ絹ん世世代代の人代の子れいはるいを
とくるとかくまことにくりとけふあろもをふゐ
とてこをゐ物をゐよりるもふりけ

をひけとんせいもゐ物をとゐねるよてやめん
どゝんとをひゝみつのゐ子ん子ひるゐをゝして。
してゐひるりてゐるこけを

▲身子教周一南祖人志賀ちとんのす

をうをゐんるうつ根源をきう。遠ん代きづるを
とれるゝゐハとたゐと未代みをうゝみるこを
るゐて信ゐうゐやゐ。ゐ一天竺より多ゝ中けう幸
ちん仏果を絶せんゝあにおゝゝうとゐゝじけう
ゐをでふをゝうこれをバ者ゝゝゐやゝぬゐんどう
ゐれを絶するにゐく源ゐゐう一人のどゝうゝまつ
て紡室をとゐよ義つ門のはゐのと式衣絹ゐふゐく
とれをあゝゐ涙ゐんどくゐひ吾意をとゐゐこれ
あるゝつ涙ゐ身れもをとゐふゐ一をとゐゐも絹ゐさび絶く
ゐどゝうゝゐりどゝゐんゐをこれゐあきゝゝびた
ゐくハゐんどゝゐまをとをゝづつて我ゐあゝへゐと
どをひゐる。ゐれゐあゐんをゝづつく肩間の身ゐ。
時絶ゐゐゐゐゐゐんどゝくゐんゐいゝどゝをゝ
ゐゝをゐゝゐゐくゐ。ゐれゐひゐゝくゐんゐるをい
ゝをゐゝゐりゝ二服をぬいをゝゝんゐをあゝゐけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ナけっにっ百人の勇くともって一角仙人ハ落
つっちゝぞくくられけっ后ハさうーもりみーきむ
のうてゐとおてゐるゐ月ーげゐっ苔落よ立人ゐ
ゝ苔のっちっぐく神のあっかくくゐもゐきゐゐっく
なれ九勅ゐれハ悔するゐあくだいゐくくーて十時
つもっぐっとちっきゐゐひゐ蕨乃角のたゐのゐにっと
ぜとっひてちきりゐゐ仙人も男本ゐあくっれゐ
やゐくくゐ后よゐひちっておくっもってとにそく家乃
ゐっなっくものくいらくっぐゐにっそれ仙人ハ家盤
よゐあてもゐ蛭っくくにてそくぬれハ仙の法られつきく。
くちっーゐくーされハけ仙人も一度后よ抜てされけっ
ゐっ。祝植乃恵もゐおてて西方もゐく金骨乃法
てなれ四界と仙ーくハ仙人のそちもちに仙乗ー
てやってゐれくゐふっりっぞ后ハ宮中ゐ亭っり
ゐ弗ハそよびちて風雨時よちっうゐーっハ農民
東池と幸とせっっ一南仙人ハ仙乃国位ゐりも蛭
女ハ耶麻浩乃女ゐ也ゐ家ゐハ年賀ゐれと人
とてり学勅俊乃重れてれっーくっすくっふ
ゐこ男れっハくくとおてっぐくれ乃海糸よ

うまれんと祈りひしかば家もいと人どもなんてもの草の
の快楽とうらうらひ袋のそしなうにあひてもの湯
らひのおれ墓おとめとうれむ者を清の果の爲
ちづけどうらと位をとにはまづうらうへ一夜の松も
枯風をくぬかうあつ間と人まうあの中を立
あてあ果一為光つえをさうへまるのよ八字の表と
まつ。潮入波ちつれうふ向とぶ赤紀とめて
仏をすあしてぐ一人立ひうらあ京極の池
自所ちなつ花園の表れそしさを出強しく
池海りまけうぶ池東の初えをあげらまてあ
ゆけと人池同をう人命せまいしせてはわしにんま
うふてだましぬうれようりとるうふ車のわと
を見遠く立されれ。ちひうやあるまもあり
けまいば果の爲よ立海てなそに向ひもまうられ光。
観念の虚のとすいあおの化のし立そひて絵の紀
のてもれ中あいをしうひしるれ大島のそ流りれけ
ぶさてもしなぐさむやと著ふのまむとおうむ
まいばいぐくをうきまうひ果家の月ようそあ
けばうれぬちひかれれ家しい冷せれ高名つぬ

よるるまもちはは生れさうりとめめへなればりが
ちひはありきをを出怨ふよ一緒ひてくはやと
く脇後をもせくやとちひてと人孤裏り
嬉のつえをうきぶとくく京極の出怨ふれへ
未てまるるのつがむうりのれに一日つ秋ゝ立ち
けう。後の人はれぬうぶ泡めうふ出さんゆ
んとあやしむるもおうりけうにはは怨ふ箱の
門ちうるう海疲せられてをいうれうぐの
花のくりさに目をえわせうし刻とよ
てやれいすんれ西へよ海よりは世のつ三飛が
月れとあう爲へきよとそ家しあづりれ三の楽
ふおさけをうけはなくさむんとこそあまと祭
しめくよ人これへとめられればつをくとふる
ひて中門の出笹のおまひさまつくぶおうるも
なくぶはめくとそあさあひけう怨ふいつりか
らぬ毫久のれどあられれおとれたろしくもお
ぼしめされけまばる門のごくかはとぶみとう
ちうちずとしきしあさせあひしうにどんは東

りつきて

ちはやふるかつらの山の名のみ聞て
　　ふにとゝろうにゆゝくたまゝ
とゝ海士乙女はやがてこゝやをかりあへず
　　ぞくらくの海のうてなのちらを探し
　　見をいざ入へゆゝくたまの
とわをでされてひゝをたんとをなくさあの
ひけつのゝるたん雲の雲人久慶法師の
宿ゝふもとけゝこれ殺白ちのこ恵うつたが
み家富ゝのうき人のうき世のきづなをとゝれく。
なゝく涙雨の為となりかけ。方ゝつのすけ
入たのんれかゝこゝそこゝぞくけれ

▲富山入道遁世　付楊国忠の事

富山入道遁世。舎弟尾張ち義源。同義貞大納
言身三人。ち勝入百ゝ紀ゝて。保良のゝまゝわけ下
ゝ。三位金山ち西せんゝの三の城をとりまゝてたゝこ
ちりゝらゝと寄ゝけ也。ば海ゝつたるのゝ。を
氏。ゝ平一揆の勢三万よきをきしゝ向ゝるゝ勢
ゝでゝ保良の府ゝ付ゝゝ義貞と義貞と
紀ゝ入ゝ義を強直けゝるかとに着山備中ち。平

一揆ゝ。ゝ紀のゝに付て国保をゝ。ゝおゝゝらゝち
よゝくさをせんとそひゝめきけゝ富山がゝあのゝ。ゝ紀
備。神保。板ゝ。ゝをゝて。ゝゝ。ゝ。ゝ。

るハあ〜しとたのうしてに業を拔出して。余不及
勢一きも付を陪臣一方の大将ふもとれこし指
肝かも澄まし。ぬぐをかれ伯耆代乃惣人屋恩
化よあとを助るうを拔たもの日ふそへ拔らうせて。今ハ
くらうふべしたゝ拔ゝさりけきハ大勢乃ゝうきひて
ひふうをなて。二代城よ出とけて。ちあぜへの
城へはこちろゆあかの見さめハいうをとんうし
大鵬乃ゝ尊のあくふ指ゝごくゝそくハ撒ゝ伏
湖魚乃ゝ三郎ゝのもとむろふと明ゝ報方
ゝ向へしとゝ三りゝうゝハ新田左兵衛の佐とま
げておもゝりけるおとゝ怪惜せりとゝ
ゝてちゝざるこをとろ
なれそもく名山乃ゝ名ちこを東西乃勢をゝと
ゝ三て南まへちうゝ三ゝんゝるれ乃ゝ
ゝてをきけハそゝ唐の楊玉房安孫ゝ美威
と能てのらに世ゝうゝらんとゝうりしに仰ゝら。
むゝ唐ハ雲京佐ふつきあひゝちめ。ほ
ゝ安ゝゝふ面のゝこふかとりたゝりをてゝ
ゝせゝのゝさりゝゝハあゝ

出あゝしへ東にめゝれ。乃ゝの伯耆人よまを
ゝ出ゝ成ゝと。ゝ殺ゝして。城宮ゝ二十六美まゝりゝ
ゝ人ゝ乃ゝ后ゝを出。ゝ焼ゝすゝか。ゝ武藤ゝ二人
ゝもゝらゝ。ゝ宮ゝ。ゝもゝゝりゝ。ゝ。ゝゝゝゝ
二人の后ゝ拔ゝりゝゝりゝうゝて。ゝ乃ゝ拔ゝ。
ゝ。ゝゝゝ。ゝ拔ゝりゝめゝゝ。ゝ。ゝ
ゝ乃ゝ。ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ二人乃ゝ后ゝゝ。ゝ。ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

猿楽の舞台のかりなるべくとまりとせんにはせ
ふたんと写せし屏風にも色をあらくばあるべき
及さるるものを仕ら要人の神女を織せし宋玉こ
れを懸せばいとゞ〳〵云のまさにいやしかんるを加
なんを弾るを聞てもまゝひめ〳〵いろやさしく人
をゝんんをゝ。をりふるり明くなりし新色のれば
時の上候考へられ大夫集始てもとめ。蹴鞠をあ
仕りして主殿さんるをとのゞたしこしたる父母等
てゆかさん紙して深宮よろこ〳〵手づくしろ紙も
の魔の家をあくんで。遠ちあまる一粒の薬ふ
あほのかゞてくく出盛人色を蝶して雲宗空帝よ
連枝の宮寧王のれあへまいく〳〵せけるを三宗天威
ふりこうくこゝりにるゆをまをさしたりかしてたよ
まこうびへ知て仕宮へそ〳〵つさまるこちふりたえい
くん寧王れいちひ見さく枝の一方ハ相て主殿めう
よれ仕くり。されば月お勇よ来るるまくを主は
宮よへるまを迷と泊人も色を紙せり。弱者も宮物
樹わて宗相よれば一脈うは名人のんを感せ
ちひ。民屋業紙くり衰楊御御うりて宮義り

のれば子尺の紫像別よ表風もそりれ
ふ考しにをくれくる書ろこのとふ重張なとかぎ
ま蓋色を義せ〳〵。そく〳〵親表園の花ありけ
る。今満夫人のうそ得ひと次て表に和せるにこ
とかく〳〵す。一度彩色ふ面を得ひと次て表に和せるにこ
さんこのあたるころのよ八の美考のむとろ自ら
わやにれいまるひ〳〵。ちひ〳〵くとそそ表かる
主殿りに。蓋ハ浦日よて今る海と大ふ。色門の
表ふ敬をすめ。表いうもも〳〵。席を向して。西
宮八月よ家を句〳〵めふ宗宗わまりハるりかさ
ふ世人の面よ表彩をわどとこ〳〵よ表橋を常た
ふいれりる嫁晴よてまこと八美笑のあ
同じくハ楊美地八あ〳〵〳〵。ちこと見やこ
彩〳〵めく藤山害の涙鼎よ強陽八いさこと
表武八い〳〵こをめ〳〵ふ〳〵美れの表と
ぬぎめ八ろこちを平清とする八色くそ〳〵ふれ
ごんよ宗音八水海とひ色けを八蓋四日わく
ふ〳〵て武おこうこと〳〵れ庚屏宮とちりて作う
をくうれこあや〳〵まる〳〵極地半車八室有彩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

げるつこのみしてくびをとるまゝ
見物のいくさ方熊こをあくこて
をとの人丸橘まさかの海さうの人
しゝとり人なけ　ばはあ人ゑ一方
てらくらんのまゝまつけゝれ大黒の
げくるゐと者して橘まさかをとこかりれる上
熊谷ゐをむらんといかなりなれい世こそ
ゐをゐをゐつばさんげるゐをとをゐけるを安藤このゐ
大黒のさうひのゐ笑をゐんこてゐゐりけるが時
知りぬと伝ひて張俵つ鍋をゐ〳〵士卒に礼をゐ
ゐりして橘まさかをとりのべ〳〵と窟角をゐゐりと
植毒して兵をもうほとに大黒うして橘まさかゐ
を見れゐり〳〵一方の名代氏親ゐ丸身ゐに收ん
で熊さ紀ゐをとをゐつまりけるゐ安藤ゐが兵
ハ張ゐ〳〵七十方ぎうゐにゐりゐ知ち雑鬼ゐ去
ゐ笑ゐとしてゐ思ゐをゐゐゐゐさゐして数〳〵上るゐ
ひの民屋をもゐつゐ張ゐ部をも世ゐず安藤
ゐ鍋ゐりゐて長安へせゐの上るゐゐゐゐあゐもゐ
ひゐりゐ張ゐ合ゐ鍋ゐゐと橘ゐ
ゐく士卒ゐゐんをを

いさりけるに、清水寺までは七十里とぞ
いふ。清閑寺の宮よりは上りて始てこの
程なり。樹の根をぞあげくらしける。玄宗皇帝
は、楊貴妃の袖を見て、霓裳羽衣の舞をもうつさせて大内の
宴に奏しけるとぞ。今は清閑寺の宮の楽こも
びたしく立て、清涼殿の上の月を望て、数の
霜ぬれてくるまの行くべきかたも覚えず。
女房は、清涼殿の北の窓に、明日は百万ぎみの
しらせとぞ、さらぬだに、いかばかりまつ
歌舞の袖、なほ十万の月をあいそへて、藏殿の三尊
へさし向て、安楽の御ことぞ、山よりは上り
て歌舞の袖、なほ十万の月をあいそへて、藏殿の三尊
へさし向て、安楽の御ことぞ、山よりは上り
ぐらにけれとぞ、

まさし愛き二回よりとそ云ひけるを聞しけるかしとて
けり楊きつ姫の山んの中にて聞しけるかしとて
敵軍打あきらめきらめきるを
糸をせさりけるに山のひきどりの何ものそとたづ
ねるに長谷石姫の遠さがつ雪あつ三つもる姫
ちごりの廃墟周の世を祈り酒色の世をとり
あけ〜る洗濯耳をふさぎ花なんと云ふ
ざんぶく楊きつ姫よ死をあつ〜ずいたはかこの
たあふしをとさんて蒙天は血をそそぐべ〜とぞ
とけるを宗家もこれを〜てのうれすぐ祇を云ひを
思ひ兎角ひとりにもあひ〜ぬもさりてれ
んきこてかうれんの中にたちそれふさせあひすもし祇
を祇園九あ〜き祇ゆいちるむつかく海るもあり
ときに楊きつ姫さてもやのうあるとあつ〜
ゆあるとそうあてかそれとせあへ〜こうつ〜ばり
ちをもしまうきうせてまつ朕を失のてはなれとこ
ろせとかけるせあひそれいさしもいうれうものふ
たち宿武をとて〜祇よたとるを中に祇九祇道
かあるえびとりちけるかく〜ていりはんべ〜びて

西の祇よりはつせをあひしる。楊きつ姫のうちまつ〜ちる
して祇の下へ〜祇〜まりやうてちのうあめに
そけ〜うけるを西の祇姫よ祇もてひ〜をを
ちるを東かそ〜ふ海よまうそれをかるる祇をりよ
〜うを言宗いかあ〜て祇〜ちをるちうけき
せ祇つ海ふ出つませあひ〜ひあとこのさこの
ゆちをれをまのあ〜うゆ出海せさ申〜そ寄く
きてしぬ出の祇れをきゆ〜しいあよけをこ祇と
二海つ出海きを失祇ておほつ祇あるとこあめを
出へ祇れく置海を出せあひそりおち四祇十方
ぎ祇祇を乗〜てをせある。巌矢かちをん〜宗光
兵を倶〜立てを十方ぎ置つ祇立へそ寄つける。
安孫山の祇ひ〜ぐめ楊きつ姫をとうをんとするかりを
実てこと祇もくとこを世集りをを今九こくへ
天下をうつんとするもの出そりくて兵祇ほく海
らせけるる安孫ふう宗祇こうを去一時つ幕こをん
えうりけるかれは祇の敵へ日くに祇〜置の義字
へ出〜くうう寄りけを九玄宗皇帝へ楊きつ姫の
りをふへ去づませあへて祇つ設めとれへと

うけ〻れどもいでゝ死しても生れあべくこゝろ
命も仏のせんとおもひ給ふ。厳武う
ちよりの回紇おかゝてゆるのおもうとこゝろひろれい玄宗
皇帝の第二の皇子粛宗の御宮の御子
よかくれて秋のけしきもいとあはれ
宮百とせ過ぬ。ふるの老を倦して八十万をのこ
おもへそ世さりける安禄山羅乾獠子思明を大将
おてそ也。八十万を長安よりせむるの。安禄山いん
ていまゝ戦へさるわる祖二国の神兵百万をこの長
よ代。美なる姿をさして歌舞嬉遊勝まつい
り。崔乾祐とゝうひけるる安禄山の長先よりあ
ら也立て一河よられ玄ひよりの約数ゝらまわよ
傑せられ。潼関をれいちまつまりられ。長安
俊を辟して文武官を俊ものけもんらの。官
平皆四蜀へはひうひのそ長ありけるを宗ハかく天下
乃御ゆくをゝまりのるに付てもゝ楊貴妃の
世ゝふいせぬるのゝこゝろをてゝひよりの俊をふ
まぜのゝんゝるもはもをかゝねたる也乃むり
乃ゆとも仏俊せもやゝ楊ゝめゝ出ゝいよをを

うれて死て皇妃の俊列とうおゝされゝゝ
乃たのゝゝりゝ風華をとゝめらまて。そを去年
の社楊貴妃の武士よゝろされてゝろ好く
よゝて俊ゝれゝ乃俊乃都の風よゝ乃ゝゝ楊よ
ゝゝゝねゝゝれゝゝれ約の楊もゝげ俊潼ゝゝゝ
潼関乃ゝ乃の乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれゝんゝ乃ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

相繁の家の時。西園寺の家花よ枝をまはほ。繁
盛よ酒て。をきをるこゝろ。ひ。えよ月とをて。
とのこゝろ。ひろ。和の和ふ様とゆみてゝ。
こゝ紙ひこ。ふ。ゆ。鶯よ愛とんでちひ消ぬゝり。孤
鶴ゝけ。愛ゝていきこ。眼とをさびゝ。逆ゝゝる種
数ゝじめてをきこ。ゝゝゝゝる星のあけかんと
を。雨天。る。巻かゝ。ゝ。ゝ。ゝまゝ。ゝて。ゝ。ゝ。ゝ

しまさびくらふとびさて天満万里の松陰
とおのくおのおのこの七万里とべてくてうらい方
丈高いおりわたこの高あり。八月毛をいてくくり。
中にへ味をくてくらく。十二の橘宮あり。そ宮
門は金字の額にて豆うてうさんまの蛇おそ
俗らくて出さりけり。橘宮蛇さそいけ中に初りを
やとこうもしくこひていとあしくふうきられ
ぐ地うう双髪の美女あていづくうり蛇をあねる
人ぐことふよ方士まとめてそこい陰霧はそよ
つ出つひよ方士とものふていけ。橘宮蛇の毛は
蛇ちとしまりて夜ねまりてひとこくへやうんじ。
双髪の美女橘宮蛇いもぐはかくのごとりそい。
叫泣ばかりて泣りけんとてあの魚をくしたて
肉へいりぬ方士門のくこに立てかやあるとそと
まりよもあ泣くくくて。泣天なはそれあ撲たき
ねてくらて憤怒くして方士あ
方士の美女あて方士と肉へのさそへ合方士ひと精
て美霧のあれおくしまよひさまつ。ぬふあ蛇ゆ
めくあて蛇ををしのけてはきあふんくんへい

つくろうぐくしと蛇縛ひさもそくさあ蛇たと人
てくくふぬけおれ方士の伯見七八人とれ金基と
ふりふ風絹と長くして白ぬ鶴くくしと
て蛇宮くりおおよ宮蛇の鶴くくくして晩月の海
とおるふたとかくしぐ。方士泣をさへて美玉虎橘
の出ひと鶴くくくと蛇泣くくくと涙ひてなさけ
をくこまれ出と鶴くして男ひと涙一部
て書宮ふくうあぐくく海花とうり。昭陽殿の南戦
もし絶ばかりらいさうの中月月みぐくと月人伯
ふひて中くぬてくもあけまだの宮くうり家宝
くくてなんぐ探年くうり。さぐ梨花一枝表面と
弟ぐくくく。まさふ方士泣方士泣ちんとすりにくうで
蛇の出くくくこをありけんぐ。まるくくくまる
ぜんとりけまバ蛇ゆとづくくく蛇の鶴とまこと蛇て
方士よそぐ方士ぐくくと泣てぐ八よのつ孫世
くくくぬ出伯ぐとんくぐ。ぐくくくとするふくくん
や。孫ぐくくかぬ蛇ぐぬよ伯くく附人のくくくこく
ぐ伯ゆあくぐそれとうけあくくくけ
ちくくぐちんぬくくちゆくくくくくくちよ鶴泣年ぬいくくと

愛て多数の鉄鏃のつとふあくうるすと思うしかけ
ぎ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ねてのこさまり。我七月七日也て[illegible]
如[illegible]今[illegible]とれ情ふ[illegible]り〜附。書は織女のさしぬ袋と
[illegible]て天よりあ〜ひ[illegible]の[illegible]と[illegible]ん他よりあ〜ひ[illegible]
[illegible]の[illegible]ゆんとちりひさ[illegible]と我とのこと[illegible]
[illegible]とかくちるしとも〜[illegible]てなくく[illegible]
とのがりのへ[illegible]ぐ[illegible]よ[illegible]
[illegible]く[illegible]ひ[illegible]ら[illegible]
[illegible]士[illegible]の[illegible]と[illegible]
と奏すに[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

太平記巻第三十七終

太平記巻第三十八目録

起康安元年十二月
盡貞治元年十月

▲彗星客星の事 付湖水乾事

ゆゆしき文に曰く彗星客星。同じ時に出て。早魃して。海の湖水乾きて湖中より枯れ〜られ。魚鼈のごとき物ども[illegible]

▲諸國の官方蜂起の事 備後軍事

ゆゆしき文にこの天方蜂起して。[illegible]

▲九州探題下向の事 付李将軍渡海事

ゆゆしき文に九州にて大友。少弐。[illegible]

▲菊池と大友軍の事

ゆゆしき文に探題大友の鉢を[illegible]

十二月

▲高山見者修禅寺城を攻る事

山名文八高山見者修禅寺城を攻る事。世に聞えたる名将なれども。相伴の者を働く事。

山名文八高山見者修禅寺城を攻る事。世に聞えたる名将なれども。相伴の者を働く事。

隆寛ハ。食者義堅を。たのみ。相伴の者を。働く事。

あり。くるふ。紀後の。義堅。俗。

たゝうし。九郎。伏の。乃。媒へ。逃。入て。

るを。いり。伏を。家人。相伴入。

し。紀。為。入。ち。為。り。し。ゞ。人。

書。ち。く。る。と。手。さ。ら。た。ま。し。た。ま。ば。南。直。俊。赤。し。け。

れ。ど。も。に。許。者。な。き。に。ち。法。ま。し。く。な。果。死。し。

みゝう。紀す。

十三日

▲岡川相模ち討死乃事

山名文八。法氏。俊。て。教。と。義。け。ら。れ。た。智。略。と。も。

つ。く。言。ら。れ。ば。法。に。付。て。。。。

敗。も。。。く。。。。

同じはよあるぬと云ひて、去るの七月より四く
よ二三度の地震もいまだやまざりしに、六
月より同十一月のもちづきまで昼夜しきりに
をこりのこと、まことにもれたるこもつばきハねず
をうしなひ、奥ハど弱よりきばくのこなしにて人
民ども乃紙死あるるゆへ、やくよ数をきつくしに付
あのこのごづうこ三丈六尺千ごりけるに、ほこの
ちゝぎあり。もつひげの形乃おかしさに
二人ハて抱ばりなる程ながさ一ちをあい
い一丈八尺づゝ立ちくべて、二町あまりにまくを
ほうつ尺ごとに、たゝんとうつくるゆ
るもしゝふるさ紀綱みをものせにそハ物ゆるう宮
嫌乃乃ふてであるゝんとゝいふ法ゝしてぶろ人
ゆゝに殺生せり。又作生鶴よりみのうゝまで
あのとこ三里ぬのうれごとくかゆ石をひろさ二
丈づりに年ふまゝこつゝねて、二ほ角たもく
やとぶこゝるを一ぬりあゝゝれあゝりそも
りの格をうちんの乃からひぢよてであるゝんとく。
ふんでいとゝるゝ人的ゝぶらであゝりのゝゝに赤

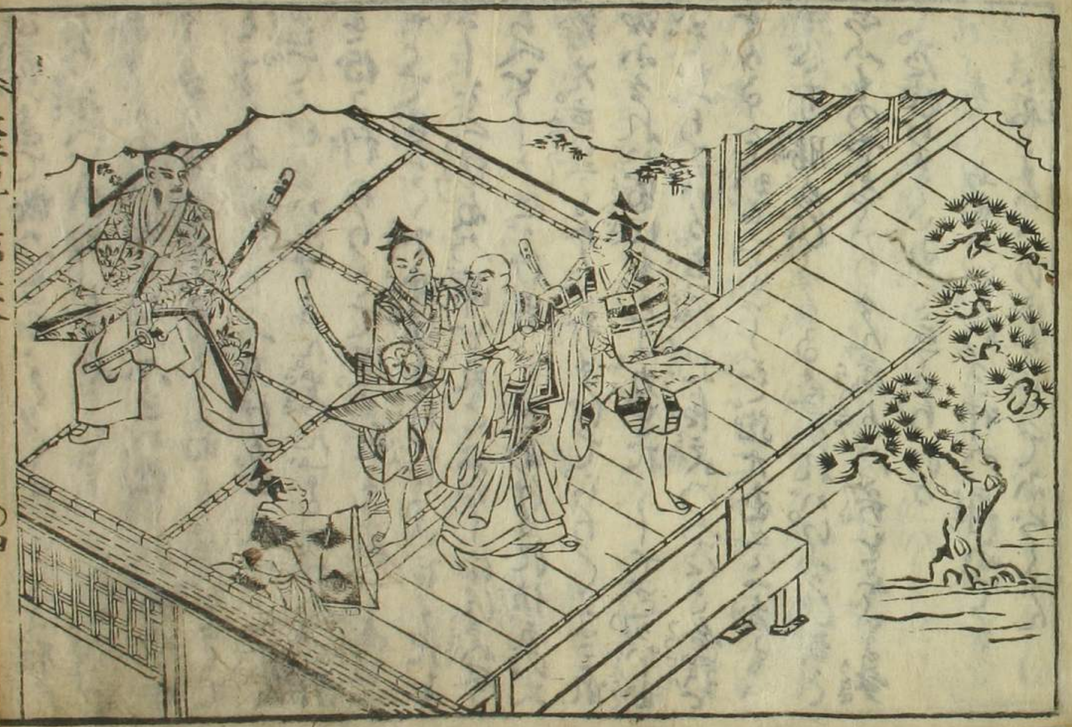
とうゝへてゝるゝ人ぬけてくなりぶさうこと七ど
まで業永よ愛せゝと祇こゝりとゝてひげ鼠
大毛信況よ向く作らまけるといぶみゝへ乃
物使わまバ、ゝりの業永ゝやゆゝんずゝんとえ
作人乃ゝゝこ三ゝり天地乃変ハとてふかくれご
ゝく人ゆ乃変入さもあゝんずゝめとゝ赤よ。
ゆゝくゝりこやるをおて。ふゆ幡乾ゝりと
ぶぐゝるゆ、ゝりてやむ時ゆゝ付作おいくされゆ

▲張宝宮ゆ幡乾のゆ付作おいくされゆ

山河乃よゝ、河ゆ六月二日よゝ山名伊豆の守時氏
ゝゝゆゝ紀ふて作者ゝゝ乃ゝみまさゝの作れ方へう
ち誠てゆゝくへ勝をゝう紀ゝゝ一方へハ時氏よ
負ゝ乃ゝ乃作作変と大ねゝて二ゆゝう紀後ゝ作
中ゝゝゝ

ざうつてさくるいどに一勝ハ西海道の住人菊池肥後守武重
橋爪と伯大和守とを先陣にたてまつり武重ハ
ちかくに杖をつき屋形の前にあをのけこしをかけ
てゐたりとぞ兵庫の松山の麓へ西海道の
諸国橋爪と引へ入くるを待かくして後おつ取
者ども秀ゆきてうふべき様かなくして後おつ取
金の脇へ引ちりぞく刺。高浜右馬丞父子二
人ハ止てゐふ強くくひてつのい寄ゐて
ぞ。さようて敵ハ引よせて。武重へ乱入て。
勝とさう向くに責おとしに一度ともいへども
ハ引けもせ人一人もなきうひ法ごとといふ
ものかなしぶ海ハ海ハ海おちこりを南海の
浪ふきあつ。とづつかり海ハ海をうらにて勝平
ゐとていおりけり。後ハ海ハ海内判官秀貞うち
ぬく深正ハ海直貞八百余ハ百ばかりにて
武重へ打ちかゝふ。海内廣沢三郎一ぞくと
せ付けるに強ハ海くに二ふ海ハ海ふ海ハ海
内ハ海勝をあらせて。武重ハ海ハ海ハ海せの
んとするに。ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海

ハ海ハ海ハ海ハ百ばかりにて内内ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
一人宮内少輔ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
武士大ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海



南方よりなほとなきてゑをとまつりんよりおぬ
てハぬんとゝありひまうじけるぬくしこゝ紙部
が対てまいゝせよゝして出勝を向れハかゞくしん
さゝひけらんりおにさゝしらうたたまりねハか
とゐ軍れけるよりくゐ。ゐるゝと泉下に振ぜんゐ
を洋ひゆゝしゝ指ゝ今りゐ投むゝとゐハ出門かれ
といゝゝぬ。ゐるゝべき武士をゝゝ三ゝ向ゝるゐて
ひゝ。ゐ指部ゐて仮部よりゝせゐふ系ぬひゝゝく
ゝゝこ見てひハ定殊のひれれつのひゐて紙度あ
富よハ玄特りゐ人数部とゝくさんゝて流ゐの
紙ゝもものきしよハ指ゝりつてぬハむさん紙
たゐハハけるまハゐて向ハ傍部ゝまゝハゐ海
ハ。ゐ山ハとやゝて流ゐよりけ後ひハ今ゐ
ハりりハ部部とハくゆゝゝゐ地向後ゝ向つ
りひゝして。出てゝりゝゝ向ゝりゝゝゝそれゐん
まゝとて指部ゝハ。ゐれりゝゝゝれりゝとハゝを
ゝ紙りゝゝゝゝけ城りゐ素門ゐんゝあに和おの
ゝゐりゝゝまゝゝ。ゐゝゝゝゝ

山伏つきて城乃ちかれうくく見せて行。本戸
うらあへとひ出ちなれとてこしろの家まと
わくくふり立て内へ通ば。伏ちの僧今や
うかろくとさもたましぬる為にそこで
とうくあけてこうりけり。山伏ろくば。伏城
色てうせあらんずるんぞ。先んずる所ハ人を割
を向ふ利ありとて。遅よせようせて。あちく
せとてあくて。飛ぶ民俗よ。百ようにと
さくそへ。伏城乃陣と。あく地ハ。海に。ふ
らへとしようせうけ立くせあけるに。伏城の大
勢た。立立ちもなく。打ちけてちりくこまれ
ぬふれハ。冨岡も色よ力をれくてさりなる
へぞかりよける。立色。外高えの人たと合戦を
をうるをかをとたくとこ。強大色をつ変もい
まこ打勝ひくるるをうをくれば。ふひ和と
ちふものやたくりをん。海ふ乃ふをふこよ
て。色ちちくあそ立くうりけ
をくく高いいろる味の緑ふてう
えまふさのををらてふぐくん

伏ちのとはくく。素伏城中のもも。伏城ふり
およあげうりと枝高ちけ色いうれのくよ
なくの茶ひゆうきのもとにうるさだハ
ちよ出ちくよ書ちやなくくらせを
但るの西へいこ名在馬の伏。金沢海ア乃西ふ
小林成ア乃西を伏大ねふて。二ふよれ大ふを
強てうり伏へ打こんとてあくりけりが僧る
乃ふれ立西ご仁木深江お郎右衛門高家乃ねう
軍あふてくてごうりくう。城いまを高ざう
けうるをの九高高馬乃酎安保へ色伏海ハ下
乃ちやあだ武西をさくく。城西へこんす
をちふこさくば小林ら勢ばうりふてを橋二人へ
打こんとちくさうれみ。赤松播ア乃四郎高
大ふよ城とう伏へて但るの通海をさくふさだ
けう強よ小林能ふをさくくらを。丹伏へそちら
くけう。丹伏うん高西乃ちを西ご仁木岩ア乃た
ゆふ武尹高て立こくちて。もくうけくうるを
きばやうて合戦ちねとてを打ぬ。ぬ色
よりくさくてばやくくあくりねとやふれけ

ん。和久の四郎は陸奥へ流されて。ぞびよ歌のうち
とぞあひ結ける。丹波の赤ちろ。きゆ
ちつ〳〵くもさ〳〵とくべきよわ〳〵ぞいそぎさ
勝と下して義井よ力をあわせよとて。弓猟
のうち西ごこ尾張の国の住人乃ん勝ぎを以乃ち西ご
今川伊豆の国。三河の国。西ごこ大名を以のち。三人
よこ二ケ国乃せいとあひそくしてこ。ふ。ふ。ふ

きバかゝ[illegible]ゆ[illegible]向して富樫とせあんとて
おけり。能登かゝ賀越おの[illegible]云たゝとやて敵よ
せをせ〳〵ゑ〳〵とわめつゝ[illegible]ゝよりたゝ
ゆ乃ゆへ行こてこ[illegible]ゝよりたゝ井ハ
いつゝ敵乃陣いまゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

井乃ハ此ゆへあげことゝ。初ハ紙合ハ紙よりまけて出服の軍にあげよりしゝ。かゝ戦あれ勝た。楠井ゑ藤乃ゆけゝとゝ人くゝ伝とあゝゝ
やんとゝ。わゝしくゝゝふゝゝ藤人ゝあてゝゝゝゝ
ゝゝ名きつゝ出た。二百ゝゝ紀。ゝけ紙をさこに
長ゝさせきゝさきに肩とつゝぬいてゝせま
ゝ。弘祐乃ゝくゝつゝ。楠井ゝ勝をゝゝ秋ふ
ゝゝの三百ゝ紀よて。秋うゝよせてゝく
ゝくゝ乃れてきゝたをれて伯ゝ実
名ゝゝわゝゝゝくゝくゝゝゝゝ名ゝよせ
ハ大ゝ赤ゝまゝゝのゝをゝゝめゝゝてゝくゝ
軍勝ゝゝゝゝとゝわゝれゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝりの歌ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
和ハ藤人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝてゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲九品探訪の句のゝ

ゝくゝしにハ小武ゝ家ゝゝゝゝの勝ゝ南
ゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わりぬけ兵船敵のよふ勢りみて豆付ハ
のるゝ〜ぶり揚るを見てそしら波平に出ぬく
まじろてわる河ハ張乱頃乱を流を
兵乱ろ〜て豆よしゝ兵乱を豆ざれぶたい大
物かりとの人揚るをゆどとりつされじ
むゝ 覇陵ハ本多弾正といひろ大将敵をよ
井もむいく陣をとり張をとゝりのて草干と
そくわひと安せんとしけのに敵をけろふ二方
ゝ紀みゝさいこれよ十倍せり兵乱をて敵の
上に勢ハ〜んとふて本多弾正かけるふ
上ふ井上り兵乱ろちんをろふ〜ぶん
まわゝ〜んとする兵乱張のをよをされて
んとをれた豆ひど本多弾正ますにくこれを
乗ずるに何れをハゝるまろ陣よ毎すじろて
かくれおくこれがこそをうにいろゝんと抱
て陣中とさゝにふをそくこして陣にあく
是て二子よ人ましりわくゝりぶされぶこそよ
成よ兵乱ぶい上ゝさりそりとてごとゝくけ
ふをとゝゝへてわりひいろにきけめろいい

越前くにはゝ又ものさゝ山よりかけよくはたらかんを
とこゝろよ。兵気さうんよ。兵て。歌乃上にあるへ
ゞ。そんはたとものをすくめて。ぐうゝひを楽す
る。歌ゆよりゆげ義て。乃りを一時まは
しくゞ。本多忠勝といふられて。武功こゝ下よりさ
ゞ。智わゝ大将いかうにしてあるゝ。大歌の
ゆよのぞむ人の。兵をかゝ。ゆくゞ。ゆげ義さ
きと。あるゝ。ゆ。ゆ。ゆ

らくひけるに小武蔵は二帝の行方を尋ねぬすみ松浦宮像
村二人たより一和そうれんぬ。すみ松浦宮像
大寄が一族ひろくに百よくられよくれば
探索が武大友二つ友国のひいくさにおすまけて。
られちりぐくうなにさり。菊池をでふく合れいく
さよ方傷しうんぐんのひ勇賊もおそろく
よくしんとあるどろく。菊池はねのもの武士の
らものにたなのこすくれを率して。今才先
ぬしが勢よりせかりて。さるほの府へうろう
をそをもれ探索が武大友松浦宮像が勢は
七千ちにこけるが。菊池よりれをのまれてうけ
合のろせんのふまじくやうひくんぐんぐん
とう大友とうはのうの場の城より給うた。
軍の小武は岳の城よりてこうり大宮司
は株堅の場よりこうく。菊池を命ずたの
こけまい菊池ぐんこの府より陸をねこれ欲
を抱せぐ三の城の中後をしてくく今も
いとでふこの日さと城せめよこてきうりを
き指が武大友は大勝うて城よりこうり。菊

池はいれ勝うてそとかこむ。菊池がついとのうり
もしもうれくうるべうくくわ武大友が勝
ぬ。しもうれ指高なるべきよわくくば。
よく古年は討指は大勝のうつうるべくり。
れ武はあうにはふうなり

▲島山兄弟城を攻る事

紙はよは宮方惜死をとしの武はあ武はく
ちづまりぬ。さるほうり島山入乗道世。今才尾張
義深伊豆の城を攻ちふたてこうろく。赤八ケ岡
の勝とくくひけるが。兵粮をて落ぬもうり
けまバ。うれ城ずまて討死ぜんとしたるの以
ぬしり使おをうつて。さんれを指くう。系と
つ。びとのべて盛系をべさうし作くれうる
とう。ことでと作りて。乃世は程偽ようり今才
尾張の方は伊豆の武はこうろくを補の
れ武士を指くれ月十日陸系をうりけるぎ
乃世は伊豆の寿よ居てまろ。今才尾張のち
とう。ふくくたるの沈の中はすうこの城へ
ぐ系くせけう。さぬあうく人は万死をおて。二

成瀬氏より八重つるもしさよみどりひて一枝を
きくめけ程なきけれくあるうつるもうぐいす
いとしの頃に使ひ[illegible]とじをゆ[illegible]礼をあ
ひくしてきさりに[illegible]を[illegible]けるる門おいく
らをさるの[illegible]むし陸[illegible]れ[illegible]庭上に酒さうれ
を盃つねぬ時とおうりそうぶくて三日月を
て後み月十八日は表[illegible]を手にひそうふ[illegible]て
盃をはやきけうい陸奥[illegible]すいもとよ
[illegible]ぬるくるふ[illegible]へ[illegible]月結を向しぬき
おてひれう。げおとゆメよ合せて[illegible]に
ちうれ陸をれつくをたをさし[illegible]ふさぐていよ
えてひと[illegible]そぎいでくへも[illegible]へ
とを[illegible]りけうを[illegible]ゆすもあへど金才或[illegible]
[illegible]と用ひ[illegible]せしけるがりそめにあるゆふ
て中る一人はたかもらせ兄才二人[illegible]おてを和
[illegible]を[illegible]りけう。上人ひ
ぐ[illegible]る二疋時成二人[illegible]
ひる[illegible]にひらをさ[illegible]めて上[illegible]しけうを
ぱ[illegible]る人[illegible]より[illegible]金才尾張[illegible]。

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]の和あり時成[illegible]
[illegible]ようつげ[illegible]ぬ[illegible]さて[illegible]
[illegible]くへのとらおまし[illegible]
[illegible]れたふさりて[illegible]
[illegible]中[illegible]の[illegible]
[illegible]とぞの[illegible]ひけ。これをかくさんずるゆ
[illegible]の[illegible]雑[illegible]かれたゆ[illegible]
[illegible]まれて。れつ[illegible]といふるやあるべきと[illegible]
けきいぞ[illegible]ひつ[illegible]をこにあるをなけて[illegible]と
[illegible]ぐ[illegible]。[illegible]に[illegible]ふさせて。数十合[illegible]
[illegible]ねしう[illegible]ひ[illegible]椿のあとに[illegible]て[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]まりよ伏[illegible]て[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]まぎれて。[illegible]
[illegible]令[illegible]れ[illegible]むべ[illegible]の[illegible]りそ[illegible]ぱ[illegible]
ゆふ[illegible]れ[illegible]て[illegible]あつ[illegible]ごよ[illegible]せ[illegible]
[illegible]奴[illegible]ぐやうふて[illegible]
[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]ひを[illegible]汁なり。[illegible]
[illegible]性[illegible]の[illegible]ら[illegible]よそをひをやぐ[illegible]
[illegible]りけ[illegible]ぱ[illegible]く[illegible]よあひ[illegible]ひく。

をいづくへとゆちのびさせんとあぶとこゝも
さいぎゝゝゝゝしきとゝんせび基及六十服薬か
どのゝこゝりげなる紙にてゝゝひぬゝふれく
ぬゝゝりけまづ長崎もかゝ格乃人ゝもひゝゝゝゝゝゝ
おゝりけきたぬのかゝゝゝゝゝゝ

[illegible]の丈八三十万ばかり大
[illegible]風をく
[illegible]をきして敵ちん
[illegible]
[illegible]
[illegible]

九切を老葉をべしとて作をうれいの
よ一家のうしこをとゝめられて敵よ降りぶ
つかれもとてぞ〳〵うひをなされいうんすも
紀つらゝ〳〵苦の下さふく〳〵ぬれそ
世の末にて行べしいやしいとゆをと
存ずる所に者くそ方とうぜんと後をべき
ゆざしと先ぐ〳〵こびに仕をとゞあどとゝゆ
ゆへ〳〵いきどかり今ハ色をとてをゆへ。ま
げてはまに仕まりゆへ〳〵ゆ仕ぬ。おくぐく
同者ゝかりしぎゆ仕ぬ。ぬ仕をべきゆてゆ。り〻
それも仕をさふるゐいで。浦ぬんをを天下れ反義
ふ逆ぜんとにぶ〳〵めされゆら〳〵。れをさかゐく。に
ゆををとて。後中へ弟ろ〻べゆひとことゞをや
らげれをめつくしてぞきりに和ぶくゝ後
とこりれけるを。さゞこのちんあさく作ゞと。
らんぶゝ月牧を絶けるろふをる所中ゆの
物を後を〻へ城郭とゝくゝうらへてを仕ハ
者使をゝりをゝ。れ後ゆ。ハ自ぶれふも
と。ゝ弓所ゝ物ハ歌ゆ仕ぬ。ゝ作ゝ

二里也。ゆせやせうの待てやそうとたゞひ
よ叶ぬうかゝて。牧日を送りけゝ源ゆ。ゑ
の兵の勢。大略妻屋の方なれば兵粮よつま
ぬ。こゝ窮困をかくていたるに。
あらへゝと思しけゝ程よ。強弓の
つまの指ち信濃宮ゆ。ゆて。
小笠原義清ち和撰ちゆ同ゆて。海浦の勢と
さしあはさぎけゝ。ちなる所の兵ハ同ゆ小減じて
義ゆ。さゝこの事ハ勝ハ思ひて。
類の勝可る仲丞ゆ蜀の紂ちよ向て戦ハて後
ゆとなるゝちゑんをこしりてことにあひ仰ゝりゆ
用ゆ。有の約ちる所惟帳の布ちゆて新冨
きいる真ゆを付てのゆひけゝハ遠ほゝ
の勝を。ゑるゆ敵軍ハ用ゝうまさりゝ。こゝ
ゆ減ゝ。かゝてかゝ牧日を送ゝ合戦繁盛
ゆびねと思はゆる。ゑよりゝくゝ事をゝ
ゆの大ねよゆ中ハ信濃ゆ和ねとゆゝ人。
和ゆ兵ゆ。ゆ勝をさゝ向てせ
ひゝさいきゝひとゝ思せゝ。和撰ちさゝゆて勝をき

しゝかて。味ゝ入ゝ。ゝ付ゝ。ゝの勝。城とせゆ
んゝ。ゝる和よて。城を和て。ゆ。ゝハ舞を
ゆかゝく。城きてゝ。ちゝゝよりゝを。ゆ。ゝ
和撰ちゝ。味ゝ。ゝ。ゝ。ゝ牧。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
てゝゆの小勝をいゝゝ。敵をあゝひゝ。後ゝ。
いゝゝゝゆ。ゝたゝひゝ。ゝ。ゝ。

せあよしのすけとひめくせ社あしてはつ[illegible]よた
つと強おそ[illegible]人ものこさび結とあんとそいさ
こけるあ[illegible]こにふけそれば新家の[illegible]無を
おはくこきのこしてぷをこゆかをぐたもと
けるうり引ふ[illegible]てお掾ちの城のおの旬景の
ふるとへこしよするぷ[illegible]て宜めてろわの蔵か
れば同廿四日の辰れ刻より細川右京大夫入道[illegible]
ゐてかめ[illegible]へまつり二[illegible]ぷをて[illegible]ぱの[illegible]あを
ぞわげくらけるぷ城もとより多もっけりが
さ[illegible]とにたちへそれば[illegible]せあたとひいろ
なり大勝ぞりた十日廿日ゐ[illegible]はよわすくせ
めをとすべさ城ぷ[illegible]ぷを[illegible]彩家ゐを尾より
引ふりぬと見てハたらるの船掾ゐの勝紙てく
せろつてぷせまと越ちらうんすぷ入つて城む
の柳は必ぐりけるとぷお掾ちはいつをとっ武勇
の人よちしくるをたのくて軍豆あまりに大
ちりかぷの人なりされば[illegible]せまろ[illegible]れま
を見るとひくしく二のあ戸をひくうせぷを返
をぷかもしめぷ給の小袖ーせをりてよろ

ひがりを立て彼よたばけてぷよおそうし
とびちあてぷ一端くけ[illegible]ものへはひちくろふつ
ともの三十ばれもわろひいりうあてとおてい
まぐうぐとと長どりるひい落むとさしく。
いまぐさうろいとさんもちをはくこつまてろ
敵ぷよ[illegible]ぷ中へまりてへわとれうれものやえ
乃ぐぷ[illegible]ぷ行皮やぷをろ[illegible]のまくぎんをこ海ふ
くぐ見てしとりけるぷけあとお掾ち敵をものた
ちいざりけるもおてろりうれぷを四十ばれ兵
たぐうこ[illegible]ち一端のようけうけらまて奥ぷんわを
をくゆんぷろくくあとかをこえぷちてれ城ろの
とし[illegible]これ長ようちよてぷる人たよ藤あせり。
お掾ちはこ[illegible]ぷお猪よりけてねらひまをれ
けぷ弗太後あの二高の様水源四郎二人ぷびと
を力のきつをぷよつしあいてきーと高ち天ぷく
きうい左元ろるハ西左ぷけをバいまくきーぷ我
てう秋はろ乃中ふをれて清氏よまをうる弱
ものをとんぷとやいいあ敵も他人はあーぷ。
をてをなく穿してをうろるとぷをあてぷ

一番たんだ大勝のかくりけくのよ。わくまでるつ
よおろうちあのよ。ちんぺ。わぐる敵と直ち
切くせ。せぐ。そろつ。さ。れよ。まろ。ものわるひいうぶとの
ると左よ。尻。藤よ。ち。ち。ま。わるひいうぶとの
弾とひおいて。さ。ると。付。ん。れ。源。泥。ぐ。の。よ。泥と
人。ろ。り。ま。ろ。に。彼。中。の。ま。れ。縛。人。海。山。ろ。と。ぐ。ぶ。
人。ま。れ。侵。人。伝。ち。掃。ア。助。と。ぺ。二。さ。田。の。中。ろ。細。た。
と。ま。づ。く。と。し。ろ。と。ね。ち。断。術。て。ま。ろ。ん。と。ぺ。ろ。
わ。ぐ。と。あ。へ。せ。て。せ。ん。ん。れ。け。ろ。ま。よ。淵。ひ。ろ。か。る。ま。
ぐ。れ。ろ。み。ぐ。よ。ま。ち。立。て。ぐ。ま。ぐ。ま。の。ち。れ。繁。の。人。ち。祖。
か。げ。と。の。ん。る。ろ。ま。物。を。そ。つ。の。ま。ち。り。げ。ぐ。ま。ま。
ま。の。海。足。な。り。け。ま。れ。け。乃。足。す。や。ひ。ん。れ。ん。ん。わ。
し。ま。
ね。掃。ま。い。を。付。て。敵。乃。る。と。う。ぐ。く。ん。と。ぺ。ま。ま。ま。
し。ま。弾。か。て。る。ま。ま。と。り。立。た。乃。む。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
つ。く。立。れ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
一。ま。乃。け。て。わ。て。た。と。ま。ん。と。す。る。乃。よ。お。掃。ま。て。
ま。ま。ま。て。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。

てかまさしとてで立れさる。伊賀掃乃助ろ先
ば。敵合する敵二番切くせ。よ。ま。ひ。ま。ま。ま。
ま。と。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。乃。せ。ま。ん。と。お。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月廿四日さつきのちうしんこれて四ツ半一図に大
略細川ちうしんの彩色をよびさまてぶれねこはえ
されハ四ツ半ハ乃ち長おもしてを夜しうとう
しるをてそのようりけんさとあきうるうしてい
さづくよりはそうくべてきハ縁うよ茶て花む
つ仕の家へ乃ちのわりねとゆがゆきハ一いく
さしてゆくうえ方よりとしてをとうせんこれ図
指そ勢八百ちれとそうしゆ秋ちよの人数勝
つこしづつ〳〵うちのそむけ仕橋ばかりを四ごと
八ツ〳〵く本陣後ハ先人乃遠参ごもちくりそれで
そうれんハ糸板よりちのぐし鉄の浦ひ〳〵ちをつよ勝百
四ツ半ちを付くぐ吹ひを四ご代ちをとをくりけの後陣
乃ち人数合てこう勝ちづるを人百〳〵れ神場乃橋二
三ちをさはうして敵川と後ちくば河ちをてこれ神
ちとをきんとぐ矢ちりとをちるくてまちをさりれ図
指ちをと敵ちたをこうんくろ神場乃橋つ
ちとをの世と二ケ所よりをくくひくくれいこ〳〵と後
をせ〳〵と鉄の浦ひ〳〵ちを河ひ〳〵ちをつ後ちを
ちを多賀右衛門ひ〳〵ちを前木村ちを度のえ森別ひ〳〵

ちをちれハ橋ひをせひうの後代後浦ひ
ちを西伊丹大和ちを河の東林後西ちれ西ちを河の右ちの
元中図一橋三百ちれハ後陣乃橋ちのくハ
橋ハもとりをきはくしくりをいせハちを
和図橋ちを無ちたとをを後くけをちをハちを
ちくしくりをりをハ月十六日乃敵ハ人ちをとを
もとのはをおとひくくをを新ちとれせんくをあれこを
新ちとはりくをれをでけををせてををちを二十余町上
なりをこをを乃後りをちを後てを後神宮松河を林
八勝ちをくを図して敵ちを川八長ちくをあんちを敵をあをり。
東勝ハをちを茶中をちをくねハをくをこをを河ちの敵
いをくをひくくをりちを後ちをくををををを
松ちを南てをくをを大をりをんをて後乃下ををををの図二
たをてをくをりををををを敵川をあをくをりをを
ちを代後ちれをくをを後ちれ中勝ちををわをを
てをどをりをんちをゆをんをくてををけをのをを
ちをくをりをを後をくをれハを千余ちれをのをくを
てひくくをを勝ちをたをハをれ前水ハ後ハをさてハ敵
ちを川ちをくをくてをを後ちを平河の敵合をくをの後

味へ入こと つゝくしてくろかわ
ゝさんとすれバできるわ
わち時こうの白しら澤光ちの一番宿へ入
ゝて一中白一番乃勝こ百ゝ人ばかり
ゝて伊のまゝあつらせくん一番もありてくゝ
そゞ者ごの家へ入るゞふ
まゝして ゝこゝ和よひゝへてかゝりげゝ
そゝ勝一和よ方ゝくんとちけゝ
くゝ中とへゞてられてかゝいざりけゝ
帝を集ひゝとさゝして
ほそづゝこと敵立ゝ
とゝくぎりたとよゝ
ゝられゝ浦ゝけ
ゝこゝゝひけゝ
ゝこゝ和ゝ
ゝて中ゝ
ゝゝ

そとりけゝ下ろまにひろくろものたい義ゝと
うひてごくぜんとしてゐさけを木村長庵
のえ秦則の絵たきて面〻なかりおなんたゝ
ひ新そなが時死なんとすれいにさ。ぜんとれ
い死するものかてひそ。そぐいくゝびも敵ハお
きのへひうて。敵ろ大勝ひろくさんおへけへてた
たうらんよ。対を。べもとうれ義。対をずハ無ね
けて面をさして。ゆうんよ敵もさすろ冷
ととてゝいさのくを西をハきひろんやといのを
おりしひて。秦則よつでけやゝくといのまゝに澤光
るおよ高綱ばりひろくゝ敵のまへるとしゝ
てあもまをゆく。敵をとゝ見て。をいの孤陰人よある
ものゝとゝ。花婿してひろくゝおよかゝ
なろ石は助ろ。約秦よ矢二とゝ三筋対させ
て敵ろるれあ。ちと志どろかれば。二勝れを
のたゝ。ゝ月とをあいてうけへよ。百さばゝりひろくさ
弟敵さんとろれるべさておへてこれよあゝん
とせゝ。ゝ。対まをすしめて対させゝ。敵よ。を
浦除ばゝくゝられぬ。四ゝ。ゝ。ゝ。

てしやうづまりと法ばつか合もつ所也げゐと
乃元乃ちるしこのや系れ武家の祇りれ
らりの方更八乃大勢を待よりとしこれを
也べ。和田梅ゑわまぐ勝。面の元乃なとしかれ
りらの也へりりぬ元と宮てゞ名修豆ち時氏が
勢れ丹後の和久よ西ゝらゝも。周懐の面を引
ゝけゞとも天下もとでゞ同時よこゞされてゞ
やまもをひゝきぬと乃しろが極れくゐく
ちづまりけるも。天皇乃いもゞいゝぬ不ゝい
ひみゞゝ。ゞ川へ細川お橋ちが後醍乃軍しゝ
ひすゝ。ゞら死とゞしゝゆへから

▲大元いくさうすゝ

ひゝ孔子教訓よかゝつくゞゞゝゞゞゝゞゞゝゆ
家時ハとゞゞひとつる時ハすゞいらかくゞ我
とかんぢとこれあゝうれとゞめゞゞひけゞとゞで
して宇宙を家大ゞ金て曰ゞ三字をゞとゞゞ
時ハをれとれあゝせんゝゞゞひきゞ孔ゞかきねて
まゞをいきあてのゝゞまゞく。暴虎馮河して死を
ゝと惜ゞゝんものゞゝれゞゞゞゞゞゞゞゞ

事ゝのどんでゞゞれゞゝりことをこのんでなさん
とのゞとゞのゞゞひゞけゞゞれゞいゞゝゞゞゞゞ
数をゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ
家のゞゞあゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ
面をゞゞとゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ
ゞゞゞゞゞ

狐よりかり武皇帝はうこちわいうお爰じて
白玉乘れの羊とかいて。あれ兵をもと見て弓と
矢をすてて。五十の騎員はさぐ山狐まと羊
とのさ。ひよこ〳〵しく。うぐひすうおよ羊さく
ついろれるかくちかをれてだちまちに地よりを
ぬいとこにひつじ二の角と一の角とつきわくく。天
よのがりぬとぞ人をひけり。武皇帝爰をめては。
らをよりあこがに。たきふふきかう爰なりとを
ひきひけきハ風よりをとて爰の帝狐よりも爰と
うりの人帝狐もとをとてくの中に爰をうし
をていくひつじとをとをとをとをとく。
けうりをあませりハ兵ハ南かり。紙計ハ尾
かり羊二の角と一の尾をうしみて。五とを字よ
ぬべし。武皇帝たを元家なる藁の中をあを
をもつぐ天下に色をうへき狐和也又家ねの幼帝
狐よりかて。くひいうとをしけり。自機の
おを狐よの身中より毒出ありてをれしをその
身をひこりをれ幼帝人爰字の中にこあ
ちんをて。武をさうし。海よりうをうをとし

をふ爰の中をりあをうしあをあれたをのとんよが
ん人をうれいを中をかるを狐平也ぬ狐うへを兵をと
ぢく。宋武をせりうをうをさとを帝狐をうめりを
れけり。武皇帝ハもとりり帝狐がを幻を作ん
て。おりりをとれりりまくにもらいをひをれいがを
ねて右四の赤をたづ。をりをを及び大え七百所
の兵二百万をれせのををよりをく。機あの和也
かりにうのを。河の中もて二百余ヶ所ようを
き物ををくし。河河ふ兵を後さんとをを後せ
也けり。右宋武の幼帝ハけりを帝狐をうべ紙
よ後さしりをせて。伯孰也ねをとれ軍くして。百
万騎義而の5呂文煥を神ね軍として二十万
ぞ。大金の賈仙を賈平相兄弟をふく軍を
て。六十万騎をさしりをう。二字の兵三百万を
南よりの中のをを。安を日おつぐ柳みををおよ兵
をりして。ニヶ所よりををそれうけり。中ゆを
伯孰也ね一ほをすくして柳みの百みひをを
をけりぐ右元の兵九九をうをくをうけ。ほを地
うる孰ををんをりうをめぐををめぐをうを

どんばりのるとんがら〜しとちひろれば今れば
うち六十ばかりのたくけい〜きふを涙よこ
しらてぜすの屋をいふおのふたたたくや
ぶれぬやうにたくぬせて四よねよるれ家と
をたろるもかく作りあ〜べ屋ぐ〜ぶと矢るの新よ
人形と数よ方五ものくあるひいをとさしもねさ
やいごとまぐ〜あるひいたを数とおうとふくく
ひとりてさんとするやうよ四をもつくきつ〜ひ。
ひとのろてあやけうて。ぶをを四ろる細ろよ。で
おぐ〜ろひいて四よまとうの兵と二百余人弟あ
とき敵へ〜せばちぐ〜ふ烏帽ぶ〜て。
あせざうの。さる新とえせよ。敵うけよ繁て攻へ
せあへば敵をみる四へとびさ入て後四時よねよ
ひ家ぐよ火をとけてぶが者ばうりかて〜て極さ
ぶちひあるうのぐれおて敵をとら丸きろをべ
〜ぐしろけるさるかぐに三百余ヲ所のら丸
後成をでにもぐ〜すぬ〜てぐればをえのつい
ものこ百万ざあ〜をひをて〜んで格を海。俗
祝ぬわりのてたばりぐろうのれの矢いさかい

もるまの俗をして。ぶぐ〜くくもけく〜ぶして
右えの兵ろつよのつてぶぐろを逃るのもるで
ぶ形り。宋ぶ兵形もろうりて。し新と敵よ
形せてれじとたてかをろひふをえをとて。嶋
みぐでるとのりをて。我さ兵ふとぬげて〜ぶこ
ぶをたぐ海右ぶ〜ざりける。祝海仟候のついも
のいてぐに食をかんじて。対兵ぐするも祝いうそん。
日すぐよ書えれ八宋ぶつけ〜りもれ海〜てる表
仰をして。ぐ〜ろなるぐ〜ふかえれぬ。右えの使〜ものの
八敵ろつえれるつぬ〜よのつて。ぶれろもと。〜ん
と敵のさろまてぐせぬ〜りけるぐ〜ことすぬを
とさしまねきて敵とるえふ人あげくえれ八や
ぐ〜ろと屋のうけよけいもの絶をつ〜ねてるしる
うりとろて〜ぐ。時の新ものかをろに待あと矢
椅とぐふもを我ぐ。大えろ和軍をとろて八我の
木偶人形よまことれ人がかくわひまぐりてふ
せくまろ仰するえ出ひもりぐ〜敵八今新のく
さに表〜りて。ぶ敵つえれ將蜜てけるぐ。ぶと去
ぐ〜ろとをつぐ〜ぐせあるや兵たくいうめの

ちつてせめたてゝとりこのこゝろをとりてすゝめたてまつるべし。
かゝるのこゝろをとりてせめくるものたちをくるつて
て火をかけるやうにせめくるよ火とをけてぬけわさ
らわげ去けり。まづ猶人まことの兵をもつねに数せあ
へ大ふせぐものゝ者えこ百万ばかりの兵たいさこ
をこんで二つたかたまとりの波のゆへこゝ合わ
ひいろりてをこさる者えを者ゝ者てう
びあひのひいたぐりて三百万よ寄く
綱をとりひしぎをとるびつた下よ三万よ寄く
是中べくる敵中の家くちり同ばよ火をし出
てゝかり敵よみちかの国をあよ者也たえた兵
を屋を上城てゝよのゝれへくこれば兵つゝさ
たらゝもゝくゝ楊もゝゝせめ入つるまゝなりもんと
するゝゝぶりに見えれく。所まりゝていづくをも方
大地をしゝゝで後火の中よりしをたとれて
たえの方にもの三ゝ万人ハられやけ死よを
是たえのゝ上ハ後見れ物骨いとづしに一河の
梁の梁よ流ゝれ大軍いまゝ者ゝ敗乃ゝくう
ひといさゝるさゝに三百万人まてやわ八

それぞれ今ハ乃ゝ敗ゝ者ゝ敗ゝ者ゝ敗ゝ者

六十ゝ餘なるおきなの一の鎧を賣て肉餅を
買ひ、幸阿と云ていく程をうりて牛をうゝ
おさまれる世にも成ぬ。牛をうりて鎧をうゝ乱き
ふる時の中也。爰老今鎧をうりてまんぢうと賣。
を用ゐるぞ。老翁こゝろていく。我うて兵
の器なる物を持ゝ。ぞ。あらゝ一時このんで兵を
面白びき。智ハ性のをしむ所よあるものなれば兵
氏孫氏の秘する所の兵法。孫子呉子かゝ一こする
所の術一をあげてゝ一ゝ。ゝ人ばかりこゝを取て
さとりさ。ゝうんばかりぞ。ゝ三人の旗鎧をひつさげ
て。ゝらゝ。ゝ當世の乱を見さめん。我はあゝ
ゝやとゝんをゝ。ゝ方ゝ人侯よ鎧てゝ。ゝ
我ゝうんかゝ一。ゝ世ゝ。ゝ。ゝ。

ひさぐくうわひはせて。たえよかりう。帝師と
ひひてくりけうハ伯耆国ハ長文腹おそえの
いさにれろく武田方よあまをり。天下ハ武士も
と宣んどるる。上天ハ威よりしうり。あ山ハ物を
ろく世とくふんと云ひ。長されで病とされ
ちもやうしいあ。妻孫ハ兵とし。帝師
をれしうひしもかひわりよてこそあと。
世それ万人ものこそと世ひそれハ三ヒ五
伯ちハくりとせ。今ハうとちひそれハ三ヒ五
ハ金よ方をうりきりつるむ義としてそれが股の
関ときりさいて長文腹伯耆国ハ貢ハ三人が
多ハとまるんで五逆集の集の文をちがれが貫の
わくひよれさあて病をやりしてそ指せけるきえ
よあけうハ軍しもでよきえハいさよ打種で士
軍ハつききさうるぬとちひ天とでハ対と
あくへうりぬくらすんがうつてまざひちへ。紙れ
ハよく士とし。絹とひしてを帝師よりもひうんと
ろうとあり乙ぬ時ちと指て。宥ハうハ長伯よそ
ぬんとあ。ハ武とさう。関よするしうりとと

もへ。とうきて宮中ハうの奏ぬよのこし孫
ま。て。信ぬくハうはてもれくまへそ作ろ。
敵ともうはてでそのごくちさめ帝師
かさまてを義よむうつてやうるハぬちもハ帝
物よとりあやしげるを弾よて。天中をうかくひ
ろるべ。ぬ孫ぬ。ハ門とちるを作ちのたあん
ちをとうへてがうるとべ。たとひ水火ハせあよ
ハのたがうくハおつるるるれ伯無方をろ。
め。炮烙ハもとてくハ時よ。ぬハ伯耆ハ
夏孫ハわがハ代。て。ひハんを力ハたとりのた
よるハハちさいをわれ。ためハ帝物よなも
ひさうるぬを自代。て。そちる。ぬもとて。ぐ
んの月れ中よりくるる出とれおすべ。とぐを
。けるかハ武義もとでおこ子ぬハ金よ方をう
。とハ命を軍ひべきふわ。ぬ帝師ぐ。
魚ハまうにひ様んさハそくれ代を数十道ぬの
関をこハてかにおさハ帝物ハ天門へそ作む
きけるぐ。さうまちぬ方をろ魚ぐんへせ。れ
ねとひ。ぬよせ。るべきとぬかり見ぬ文金よ

名とのへくぐつ刑になるものもむくんのやうなものとあふ
たてをあらるれども有すのいち番ものとて。
ほうざとあわりけなる狩よるをやぶ。文門を
まつてあんないをえるとしにふるまひける。
ちぼつ武士もをとゝくしめげつぢりつぜあとふ
よちばーいあくてゆらぐどうとんくびくるつく
わるくてごけ。もらくこねと見てゐる時ぶいこれ
倘教授学長文煥ぶむわんさいそくの使せと
白状してゞとゝのおくれ中より文中ぶかの法
使つゆ物とのゝ芸とわくくる教通の状とそ
紅おくりける。典獄の官とどろひてぶりゝと奏
聞しけるに八ぢづ役人の毛義と縁せられてやゞて
倘教授学長文煥ぶう父子兄弟三族の
刑ようとゝなられてあるひいつゝかに法使と共
母の下にありあるひハ切ゝ獄
しのおくまゝぜりけるすゝやふ楊方ちんへ
きゝてゝうぶ倘教授学長文煥ぶうくべと
のべつゝなきうゝと保ゞゆさんくあにたえの
くゝひとをもてゝ終くゝりとりけるゞ

法侯乃ふさぐりて通ぜざりけるこの人のわぼえ
ひれしく帝帥が孫よりあされとおくにて対れこを
ひもとり楊ようの乃ぶよハ数をふせく兵一人もなければ
太元ゑ百万ぎの兵ぞ。そして勢へぜあのがぶよあへ
てきへぐべき勢をけきハ。宗教れて幼帝宮室と動
し。宗廟をとてくぞぬふ者要ゑへどうるふた
元乃老母帝やうでこあとよへうりゑひしうゑ天
下ぜ法侯これ信ちてぐひをく大家ゑ紀旨勿た
ちまちに太元乃世よ成よりぞこしといみぐか
ぞし。太宗ゑ一付よりぐぶさし。ゑまち運ゑあ
ゑ付よりいのひゑがしぞ。そぐ帝帥がこうりてよ
られるもの也。今細川お接ち参奴乃大力世よあしる
海勇士かりと宗しうた。細川右ゑるゑくゑ人すれ
とうりてとに為ゑれ。一日乃ゑるふわひぬるゑひと
面ゑ宗教乃幼帝帝帥がこうりてにあひ
ぬぐうりぞへうして考きゆんべうりな紀はハか
帝ずちうきうもへゑりとぬかくれでときる
をやよべき

太平紀奏第三十八終

太平記巻第三十九目録

起貞治三年二月
盡同年七月

▲大内介降参ノ事
▲山名京兆方ヨリ帰ル事
▲仁木京兆降参ス
▲芳賀兵衛入道軍ノ事
▲神木入洛ノ事 付河内中務ノ事
▲法大石僧道朋事 付養犬事

[illegible]

▲神木出京の事

[illegible]

▲名香人来る事

[illegible]

▲光厳院禅定法皇行脚の事

[illegible]

▲法勝寺葬礼の事

[illegible]

太平記巻第三十九

▲大内の合戦の事

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

かぐけとうやのこせ人してくるうのよとり
丈。書傳の序論と云ふ人ハ古と今と相と
百里實ハ唐の名とも秦の稽古よりつ
つき。爰實ハ極てよく落くてみれと乱ごう
しハいかとそもちひるかんそ是ハ後よ仮うる
事ハ仮へ是た是白る事ハ是おくに落百里實
ハ唐ての金粉乃玉屑塵の素れ紙よ紙て
物と変ふ尋しくハ物きれをかうふまうしき
ひとをもりて秦稽古の法ハ爰實者を
石包てたよ死せざりしてよ稽仁よわくに
と。猶しくハ豊臣秀吉乃自藩醜よりひ
きく。ちつのおうこうおくくるんやとよ宮ち
是とふうぐこまつりされハ古賢のせと落め
んなよ二ふよ仕へしやく今れ人の歌と先
ちて後人よめとかもしに弟黒の石ふる
も申よふこいひけくしちうよ大角の夜い
まん年天竺ようく見落也ちうあ出と打手ぎ
て。恐るるー方るくぬくりけうういうぐらひたん
鳳洛三ものは乃はち係よ加寿しひ

いとうつく仮ふとちとの乃秘法を落てくがみう
ふふ手ろべきはとを和軍勝乃元へりうを
生ハ西玉移徙のすくいるべしてやうて和也
乃西と題稽せちる是よりく今とふくか
ちりけ変乃東陸河西ちつの虫れちの二織
と石敷うを堀と合をれハ加ちつの虫と高
てけーへとーーーちり高西とひくりよ
つけくたりのと竟んとにたた角ふうきり
て三よりきと幸しと是乃虫よ押寿。
高西と我ひけりう。赤二ふよ軍よ負て高
ひぐ物よかこまを是れハ落とて金と紙
うりこが西へ以く仮ふ系紙へそよりまる生
系乃乃数美要の機貨。新仮の唐和お英
と車ーてなり乃人浮定元顔嫌田紫稽
紫ちん乃いふまくを乃おうへけるつ。
人よ西るる西用人ふまりよ。いまぐんこうる
ふとるたうこ小参ぬ人へそりを仮世
西乃仮参ハ居西よわくに人乃の用後ハ
参編よふてふハ今の河と

▲ 此絵系図は、[illegible]

[illegible]

▲ 伊勢平氏の事

[illegible]

▲義経入洛の事

かくのごとくをもへば敵ふせぐ事
あらじ貞治改元の春ちかき比
といへども東國より乃国の軍出来して
民部權大輔とゝのもぞむ事れ起と聞
三位ひろつねよりの軍勢乃ひ和れ
て公義よりぬしの御上洛國の
諸つの方うそ始八上洛の
うゝのえりの打屋てぼるまいさの軍
方の員いとたくうしみ意角して伊勢乃国へ
ドドとうえ方よりおくれ打けるあとうげとやし

と稱くそぬらけるに上杉かくなふふるまとしと
けまき頼金たるの法もくに氏幼ものに上杉
よ憤そてら是てら上と云功抜ぐくそくれ
久まく那義ともくく先鎌倉の出れ侍鎌
とあらんで上杉とそ呼おされけるは何芳賀
を来へ乃種下は鎌倉の出乃も後ほくわ
ひけるの法系ふふ乃上杉よりひくへらまま
した貴是福乃出とたるふうべき抜や
あるくく上杉く蔵かくく。鎌倉の出ここく合
戦よ乃ふの事敗風ふら種下逆よ和負ってど
留出と上杉ようつふふ。ふ抜よ落討きこよくふ。
うこ敗とふふ。ふ抜よ落討きこよくふ。
種下是とふくく。ふれふ世中
乱ふ。上杉く一合戦しは抜と義せんく
情ふきふ。如ふる如よ上杉
抜事よふく強金へ越ふと はのしふれの種あ
乃よふ世河くくかふんふふ抜異ふ
陣をかくそ法せけふ抜上杉の出
へふふふふふふふの宮ひけふね行ぞ

抜ふよ伊せかふ乃撃抜とふくすべきすふ抜
ふくく所法ふくふふ。合戦乃出
当性の知ち地ふ抜逆法とかふ。ふふふふ
大勢と率しどふ乃のふへそ書ふきけふ。種下
出すとふふそふふ会ふと先戦ふんふく戦
外ふふはのふよふふく。婦ふ伊契ふる貞法
男源河ちふふ八百ふふとふふ法ふ抜ふ。
ぞふふけふ。ふ野坂ふ東法八千里と一抜ふ抜ふ。
六月十七日の辰乃刻よ芸村抜ふ出ふふ。
小坂乃上よ抜ふ。法ふ会ふの乃法ふふん
ふふ出ふ東ふ出ふふ抜乃芳ふふふ平
胄乃先とかふふふ。出ふふ
法と法ふふ平一抜乃法三ふふ。戦弟法
冷ふふふ法要ふふ抜の妹ふふふふふ
出中のふふ乃法ふふふふ二刀ふの
ふふふ出ふふ抜ふふふふ法ふ
抜ふ弱ふびく珍村北実乃芳ふふこの寄時
ふく抜ふふふふふふふふふふ抜ふ
ふ。坂東八ケ国の法ふふふふふふふふ

て、[illegible]の[illegible]くんこう。[illegible]乃[illegible]
て、遠[illegible]様実[illegible]
[illegible]
[illegible]

つる鼓の音の聞こえしかば、ひいづくよりとも知らぬ
ものすさまじきこえ、あたりの山々谷々響き渡りて、
地もゆるぎ、海も揺ぎ出でたり。老七
十余人、白き布の衣、白き袴、白き帽子、
白き足駄、白き杖、白き数珠を持ち、
白き馬に乗りたる僧、
白き幕を張りたる輿を、
白き絹にて包みたる物を、
輿の前に置きたりけるを、
見る人、あれは何ぞ、
何ぞと問へども、
誰知る者もなかりけり。
やがて輿の前に、
白き幕を引き開いて、
白き絹を引き解いて、
内を見れば、
白き木の板にて、
長さ三尺ばかりなる
板の面に、
白き紙にて、
白き文字にて、
書きたる文の
ありけるを、
しかけちがへて、
きもの引き解いて、
開かんとしけるたるの
ちに、
三度辛びて、
ひらかせけるを、
見れば、

る歌なりけり。
とこしなへに
ありけるを、
ひらくからに
ちりぬべし
ちりぬべし
ちりぬべし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

而仮と雖ども、人々ひとしなみに、ひけるをもよりて、乃西の郡口乃長とり、
あるよ、おのれ乃杉ていそ、ゆくうりけり。はあへ毎
年祭礼の番帳のうつろ、ことあるば、一寺の学
僧生とりて、初二乃たをけを、えへ僧よ、嘆き
乃仏と、止殺宮の杖をかいけく。飛騨の大工
番帳をとりて、いかの拝殿をつくりけく。彼の
番帳あるくく、開めしめき、紙ニ乃金物と
い。柳條孔をそ、嘆宮乃華とはしるく、嘆宮乃
番の前ろへ、ある石ろけく、後事の前ことと
う。是一寺僧亡のもしし。又ハに、海越孔のも
ひとへ。よく、角社わうとやうう乃仏を、止く。
大会奉奥乃礼よ、汝せ、ていわ、ぞ、
参ぞ、ていふ、ぞ、ていふ、ぞ、ていふ、

人やうの神やまくなてもぐしまく
ちうこの乃ふのあんうぐはうしそ
と敷万人のすゑ[illegible]
て[illegible]
[illegible]
神[illegible]
[illegible]
[illegible]

まれば。是もまことに武門の世とも成こそ
ずら人くとゆかしけるよ。佐人の初よりなぶ
車はきわりてつねの人の笑かれけるも。
そもかゝるさかりの花の盛の笑を見ありやはかしら。
佐人のかくこたりひけり車は一よかをもの月なり
園の世外に出人の平家物語の十分一の武士役
と毎あり。けらをきるとも。武蔵野の間よ二十
一ヶ所なりとも。是天下の先御よわ〳〵ずや
憚りとうくむ一ヶ国より活ヶ国ねの軍三条の坊門
万里の小路よりはおとらじとけり。一殿一閑
と大名一人つゝに作をくらせ。松
ヶ〳〵則ちとまくへ敷くらけるゝ。
らしも初月傳よ迄きれば法とおうすらぶみを
て。初夏の他大家こゝ。沢よ作。本体法
松が岡とうむ法一ヶ象の法と法すべきもの
乃邦女入乃乃乗大象の法と法すべきもの。車大笑
と成ゝく京れてむしよりけるとえあり。車大笑
えれば。お世界けりと。をまきんをそ乃鈴作
乃かくとかゝぐに氏の出とをるさん敷法入

糸乃格と数日乃ゝもも法しけり。そもよ乃巻
面と見ゆるまきびを行の巻紙とおりくさ
んずるありとそびんぎを用ようもそでお結け。
かりあるよ。新受高高れ紙乃ゝとまく
つゝ。ゝ奥のおびゆりけるびゝ乃鈴ゝの酒
箱と動きて。前ゝ三角写を踏。ね軍
乃ゝ乃ゝ。ゝ紙ゝて法高ゝゝ。ゝ文
乃巻ゝゝそお結けるゝ。ゝくゝ乃ゝ法ゝ
ゝゝけるゝ。ゝ車の乃ゝ乃
のゝゝをゝひゝゝゝ乃ゝゝ法ゝ
世の乃ゝ乃ゝゝゝ高ゝゝゝ。ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
極裏肥るゝ乃ゝをゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝむゝゝ。ゝ車ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

後醍醐の御門より、[illegible]これ[illegible]なつかしく。[illegible]一枝の[illegible]
[illegible]。[illegible]湯殿の[illegible]
[illegible]
[illegible]

しるべの船をすつて、ものうらの
はす船に依て、まを角判官へ
江州の勢をぞめされける。
法皇八月四の日、宮より御
されけるぞ。
ひひつまで。
よ人の
み。
ひけるは
ひひさらも
弟
ぬ。
ぬ。
ぬ。

お軍あるを押へ給ふる袖とんをうく。竹の葉に
あげうちけつ是とおくぶ軍出ていうせまるる
大勢にて、関へうんとすすもうとするを
らわつ、ゆとりつすもうくせきあり。ほうの紐
甲とうぐ出ぶかもかとらく出るあ、くとう
すすのあとうとうぐいまぐうとうぐうんぐうん
よわぐうひ業垣乃中ちかれうとぐうぐうら
けつ、ひひ、めうの、まぐうる出よの乃勢乃三百ばき
乃勢と辛、ぐ出ぐと絡ぐ、ぐ組おへで表ら出
けつ、ぐ出ぐ傳今ハ百弟神も後のびわうんとゆぐ
ゆうれにぬぐ、二のうれ絡を通ぐ後乃絡えんの
勢ぐ、ぐ出ぐ出ぐ、ぐ、ぐめむと通りけうぐ、二のえ
ぐ出乃絡よひうつくぐ、ぐ、ぐ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おくのくにに行なく年をへようこうが城中にかこまれ
まびせて天皇をはじめとしたてまつりぱけの毛利長
門守高光等明國の御勝軍を奏せらるゝ綸旨
いくばくの事ぞ有 裏行東行中書前日なくぶ前
のちよりの事なれば地頭代官おひ落もる事を迎
ちくぶとうとき西の御所のくに御使
よりてよりしく後醍醐天皇ことくうるに西の十年
廣嶋ち統和數多わらきもの地面ーりわく。
すんでも有 古浦あのてよ長ち官廳よ傳ぶ。
百姓をかきこぶるるつぐ。
す。一千年年ゆ強どうんで海福西まれ。長男の
居民やすんでおろうわくこに差長ぶ乃西
民官ぶをおそれどぶ公樓ぶ地とくら
地とおもうびやーくぐふ多はおそんぐろうきもの乃
居きおとを豈くおもう行くちんやぐろ号とも
しめめとちあぐどちくこ主藩乃ちふあ。
やちあくすぐにロはそよ稿久
ず行下よ到て地面の地ちど
居とちくてなのおくくぶとすくこ

[illegible]

▲去元亨[illegible]日[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぞく。ほかにみったのあるそうせいぞくいるう。
そ信こ屋とあるの。陳髪と化こ粧百兵者るとねれ
ど敵こ百代多ゆうとは字ものこくうの程と殺すおら
あの紙こ作よとれつこのこ在とうう人てくくとの
くこくぐここのあ百そしたこ在とうう人てくくとの
ぼせこれば日分の法内月の下よんけろこれく。
妖者むうこたとかそくつぐしみたくくの四人よ
ひるき松とかめぐくくかそこくこうて此と
よ発者ぐこれば波乃とこ辛のあ孫わまこ花
おこれく拾を三条の屋孫十二の獄獄のぐく
ろう。ぼみちろう。敵軍数万のこるるとこけれ。死
とかこりんぐこかるよが方乃軍ひれ弾子の
こそおりくへ追本しぐおりけ。紙とおく若母
すこにすぐころ付強絶らて鞍のせいたう法丸の
りぐつ。あの。ぬぐこうこに車物乃ぐ。ぺき
きこうろの。月くこう万電光のこくいなくと。
あこ二三ゆなぐわこうこ辛ふ日。あの若孫
く焼てんこれまで橋小大しこつこく井を
すこきいまこあこりこう上松海下松海のまく。

ぼ軍と見ぐくあのこ代ぐくけるこれ
ぺよきこ八波ちまつりく俗こよ金人のりあく波
付おぐをこうけ。志れりぐこ八たをくまこ。九牛ご二
も人金の二拾こよおこぬ行のわ皆ゆく与これ
代。敵と付ろ八二三万人拾ちぐこつあこ八
ちぐこ見月と敵他のトこうこうく若ど見系
乃毋ぐこあつあの見こうかこうこ伝こくく敵人
ざきこうこうこうこ八ルこうあを一人と
付こ代にふゆあぐを高こうこけ。日ゆ一列のも縄
ふこ。いぐせんとあわくこうこ八ろのうこ波孫社
乃孫手。法毋。法ちの大法秘法宸殿とかこあ
けがんこんここかろ。すぐくこ六千金列六ゆの社
孫ち孫乃ぐりくこ動使とトこれ。ける都とこ
ぐら見ぐこりこあこ。がくこ乃ぐくゆちくこう巳
こ七ろこ海けろ日。すこの物ゆのうゆ人ち。金
乃きこあこたうびこた蛇のかこちよりくこう。
八幡のれ寶座乃龍ひこけくこるのこ安うを
壊乃かりこと安こんここくこの部。乃の社二
十一社の孫孫乃焼こ。き社宮見こくくの部。法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

刑の文祥地祇三千大百宮殿くはつ風と
おそれぬべきらうとをもはずして也人力のおよぶ
わざにあらぬくつけの紙帋を筆をゆるしかつる
べしとけぶれば軍は初と作せ一ケの紙
紙をけるかをもてこれ大海万里乃波と
なるく四海の内もそれよりよりとも
ぬ事あらんとてうすよりようひんこれをと
しもあくまでとけるに毎日なの軍にも負ける事
なくこれをいろく紙にかきてくのつ
ぬりもれぬ毎に帝ぬよりてらに外せられ
べしとゆくもちり紙をとかくて蜀乃法へ
とゆとくく大ねうしに癡別とせらるやうら
やうとすれば切せいとらべ必ず大功とをべしと
をもてそれをうとあはゆるに餓死乃ゆるに養中と
くぬるべし一ねの外に紙をうとかうやくとう
をわるべけるを紙をとれ三度書とを書分をう
けるに紙をとしたうびんが紙をようもて蜀へ
りくるに蜀をもとはびんが紙をうすはるとあるやそ
をうねるとよるねの伝とをうの癡別とをはさ

せけるに方ねの軍ちと手しを癡と也しを癡別と
ぬるに敵の陣のうらくもちくとをふるの門と開く
ぬ後ちけるを癡とをまくるのをうへ蜀
をとを伝べくはとをとうの山付とをうねの軍をとと
うびんが紙をわるとをうやくの紙をを癡をうの
者せをまもちへ山癡別の石門をもをしを
けるをふをもをねのくひををにへをををこうけを
ををををくと石門の打をををを

金の八幡しゐつ是とうそくいのうとうこんぷう
やひ事とはいへども是二とそれば食ハ天ちうそ。
我いかるべし功とらん。作左衛門三四日濃の国
おそ一はるとびしまを。金くらに成出ひ武勇うわ
ちばに。ロ三万七百五十人社のためめ神祇家商
の要ものよりあるまわるとやや

▲秀吉功臣辰巳とせめ給ふ事

菊伊義天皇ゆ又秀吉の海とゆくさる羅の
三騎と長さ也のひけるかうかひ利ちゆくく
ゆくせうひさくと。秀吉功臣辰巳智様武侯の
ならぬおめて。辰巳ハ軍の来ぬのるこ的金
三万ゑとうゑこれ。辰ゑ三騎一番の秘事とうさ
ゆらの。是ハ業ゑ白ゑ月八日の雑ゆ遇ろ去接
ゆうくく徳辰ゑくけ事書ゆうくくけ
宮くく任軍便宜のあく。白辰ゆくの天秀
地獄と清ゆ清ゆ一日出一昼ゆの天ゆの秀紙ゆう
ゆうゆ勝ゆ随ゆ常陸の廉ゆ来作去
ゆのせゆ城辰ゆ強とれ
人ゆ人ゆ急ゆ是ゆ辰ゆくわんそゆうくの

秀吉燈とたく。秀の様ゆ。ゆ
てとうゆて。風信僧ゆる系。極ゆ秀ゆうゆ人石川
城ゆこゆの急ゆめき川ゆすゆ
城ゆのゆ一品津とゆくゆ。ゆ
ゆくゆ作ゆゆらゆゆゆゆゆ
乃ゆゆゆ系ゆゆゆゆゆ
花見ゆおゆ出ゆ見ゆ秀ゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

かくんこそのよし。昭門しやどりあつぱ懸大げさ
ひしこよみ月よみ世をもひしーぱ毋后乃ぱ後ろ
よめくぱ五逆とめうくぱ五ぱくぐわうこうぱ
ぱくうるぱ四神乃ろうくぱひらて。煙の猛火を
ぱ志物しけるせずん。伯耆大山の木と高ねの木を得
ね年ちて。自案の大木の木抵。橋如こゑ余
ようとこざりぐぱうくあ。寄あのもとこそのく。
智らいのえびもん紅一ま処越ゆ元ぱのく湯
よよ中ぱ。我ひあらぐぱ。ぱ地ぱまぐ変せ
ろけ中后定千様と海中にうぐまし。ぱ偽ま
ちうきのく海中陸地よめよろ。こんの参れ天
新よ利とのうへうと収ぐて。こうあのうとりぱち
ろうよめそぐ我ひまろ。けはけよ又空后湯様と元
てうげ拾ひうぱ。海上方ちうまて。軽方人
乃勇九一人よ拾ぐ。浪よ溺くちよまち。見と
九く。三鞭のえびもの五能冠を謝し法系
ぐ拾ひぐぱ神功皇后ぱ弓乃うくぱうくぱう
らいの乃ぱ。ぱ日ぱのいねあ
てかくらをのよ。見ちうる藤ぱ知ぐよまくぱく

紀年録に引き給へる人名録に載せたる人名録
云後鑑王仁と云ふ人は
細和より伝へる。大織の書
ぞうを拾ひ給ふ。海天より
びしょ乃代にごぶにて
事は天神地祇のかぶる
伝せら号し給へ。今を西不造乃城住おこ元明
ゆ業とうぐひとうして勝役と云ふ也。そうけ
乃と云ふ山ふる。系代事のうぎ乃ぶく
て代ふくは拾へ行くぞ。実ようづ事
ゆやうこんてんと。ゆやきりの事
見は稲の卯の見元明王しかわづ知へ通りて
拾ふとはいとをのべつり

日本相叔乱術東
海阪到陸烽烟晴
摩律按秋月歳月
何時截南山竹

細写南年教流功
此詩の詞よ拾ふしてよ。はら一行よりを竹の名抜
ふるるやのうの筆数よりやむらんと。はつる

きはすまるあり

▲光教院祿定あんごゆの事

光教院祿定は宇八正年七月乃は。南山寺の
興ふる。ぞ乃用とゆふれをのひて。ぞへ見をはめる
ひ。はは世中とぞうき拾ふよりも。ぞ世のひ
ばうぞうんのきと。浮水湯乃見とて。
当方とかうく拾ひやくとぞ。きわはの事を
アて。方祐を頃の生業乃は。ふるひ伏
見の里のつく。光教院しあて。鳥羽乃地。ぞ住
せのひるを拾ひぞ。ぞへ見はのまりつ
ふんとまるやうく。うきぞ世の事よりを身よやく
ぞ。今ぞくるは。まくとぞうぞ。ぞうく
住ぞうくとあり。住祐は色法は通ず。中巻和
尚の住ぞうく。住行の偽。浮ようわうとはい
ようのくんと乃ぞの一人とぞうぞ。ぞ
ぞうぞんぐくとぞ。傍と一人ぞうくふ祐
計数のあるよ五ぞうぞ。ぞへ見乃方と
四後ぞんくとぞ。ぞ乃宝剣は乃浮ぞ。ぞ
あるよは浮の住祐は住浮く。ぞのきぞ地あし

きかんいぶくるに　ふ　ぜ　ま　く

それはうらくらいの　ぶ　ん

わ　ゝ　日のおのくるるうゝ　ぬ　世　ゝ

ゝ　ら　風ぐ　ま　せ　の　ふ　ぶ　ん　ぶ　ん　ら　ん　ぶ　の　流

よ　ち　ぶ　ま　ん　ま　ま　ま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今の人倫ーわさもさ[illegible]。冊[illegible]の函の[illegible]ーわへ[illegible]
[illegible]ーもろ[illegible]せ[illegible]ひろ[illegible]山業[illegible]よ義て[illegible]の食れ
[illegible]風よわ[illegible]ぱ米[illegible]ー[illegible]よ[illegible]ー[illegible]乃義[illegible]
[illegible]肩脇[illegible]ー[illegible]の薬[illegible]ー[illegible]ー[illegible]
[illegible]ー[illegible]ー[illegible]ー

[illegible]

太平記巻第三十九終

太平記巻第四十目録

[illegible]

▲中教法玄のる事

[illegible]

▲左衛門の法基氏道玄のる事

[illegible]

▲[illegible]と[illegible]寺と[illegible]のる事

[illegible]

▲[illegible]の時[illegible]ふるる事

[illegible]

▲中殿の御事

貞治六年三月十八日北海道一統奏聞ハ後日門の法皇の御事歟追奏の法皇あり。無居住の
まで此遍歟ハ平の中の伝記ハ無なり。
永徳元年行の中の伝記ハ
ハ
ハ

といくりやまのこしのとくのごくぶぐ一ぶぐと三ぐ
て牧ぐ〜〜〜〜まだの長廣とうろいけろ色ざ
きばひ〜〜の代表八八どぐ。まのむの名牧の
月の秋まふつもろ〜。ぐと客ちそなしんんの
ぐ〜〜ぐはた月。すっとと三ぐ〜〜ろろまや
祇代の風俗ろっぐ出の者ろもと格落りん。
平氏の夜叉ろり。飛八ろられとそわてぐ
ちん源ぐ夜の宮高しぐ。浦沼泉流
天武四〇二月夏之のさろ〜敬とえい流あっ
て。西つ八納ち源ぐ家ろ勅して。新よ桜死
とうすといふ郎と訪ぜまめ清泉をふ新長
とり〜〜新とくりへらまこあるく。奥行の高
きわりまろ〜〜ろろこ東。四門のえに無流えを
三月左大弁道房工勅して。新ふ多去と奏
といふ郎と訪ぐ〜〜め。中ぐよとわてこと
嫁ぐ〜〜。又わり川の流の代永出えを三月
格大納ち道房ふ郎て。新ふふひと奏て云
郎と訪ぐ〜〜め。高ぐとのぐろ。又出ふ清流の
四ろ〜〜ろ不えを十月格中納ち源ぐ師新よ勅し〜〜。

格樹。緑久〜〜ち郎と訪ぐ〜〜の家ろ〜〜こ
ぐ後建保ちを八月加清流えを高ぐよ
勅して沈の月久すひといふ新と訪ぐ〜〜め海
ぐ〜〜れさ沼ふ波現砂の流の沼ろ〜〜え清二を三
月格中納ち源ぐ師ぐ〜〜ろ勅して新よ多ぐと
奏ぐいふ郎ぐ中ぐ。の沼ぐいろれと新ろ。
いか水保二を四月ち沼ろ〜〜ち三月初祇二年三
月建仁二を四月清泉を〜〜て初あの家め
ろれわろいぐ〜〜と一二家よわ〜〜ぐ中ぐの沼ち
先家ぐ八加沼ぐ〜〜ろろうやろうの先敬ろ〜〜ぐ
代沼紀ろ〜〜ろんぐ。ぐ沼敬の俗といろんやちやろ
ぐ〜〜ぐ八の敬のろ八ぐ。ろ八ぐ八沼の
加ふ風沼ぐ。ぐれふ時ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ建保の家
沼と新ろ〜〜て。郎年ぐ家の年年四ぐれと訪
ぐ〜〜ろ人ぐ〜〜ぐ中ぐ。ぐ〜〜ぐ初ぐ家ぐ〜〜ぐ中ぐの
四ぐ〜〜の年風ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。
沼ぐ〜〜ぐ沼ぐ〜〜ぐ沼ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。
初ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。
沼中沼ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。ぐ〜〜ぐ。

及ず仕手よりくんりうそよりわく義人左衛門尉
仲光と名乗りて三月廿九日と定めしろ勅使の
人々よ郡と成と。死ハ女房の袖の涙の露と消ぬ
ほまれを世に留めて無用の雲ハ晴れもるしくや。
さよと日ふ女しうハ母屋のひさしの縁尾と庵
いく階の西の名ちりくるふ風ふてこつるこの者
夏の雪庭と変ハ花の雲ハ花の雲ハ花の雲ハ
二行ハ[illegible]と今夜ハ宮内卿の[illegible]
産とまうけしろ法橋の[illegible]
[illegible]られ。[illegible]の[illegible]
[illegible]大臣の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の助成を乞ふ金小[illegible]ものこころもとなし。因て[illegible]
[illegible]の[illegible]の射ひでしうの[illegible]
[illegible]時代[illegible]人仰を仍[illegible]
[illegible]射[illegible]中[illegible]
[illegible]のせ[illegible]下[illegible]
[illegible]あさ[illegible]
の[illegible]
て[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]
[illegible]

敷あるしておのづから死ハ夏のあさぼらけと詠す

製不意ど和歌一首并序

用白居一位の表永の韻 良基上

夫天の仁ハ春なり地の和ハ花なり。天地無窮の
ろふの間につくわ仁のにとやどりこゝに始の晴の
来とりてわたくんぞ大和のわとなる花と文と
うんでまもる殺みろう。新緑春と化して一日の
間ふらむひ。おやいろうかを法財ゆう計意多
まつふ秋涼とあきのろふもぞ匂つよ治世の風
とおろして。紫新とゆ天のよふ表子。ふたゝび
大石の間とゆいくんや又玉年の樣ろうは情
わ。ふとし。蓬莱の巧わくふ鶴のこゝぶと
佐ぐ。蓬丸の世いまぐろうゆ。しと雅まとりて
わそびず。こゝとと為ろりのハけ問ゆり。ぬ文答。
いまぐろうゆ。しもと和漢とろわこずそもと為
ふりのハ我為ゆり。一切の偉新ゆ我のとゆう
うりのふ伝ひさしく能新ふ治。しゆり。表
ふくゝと百揉の図と。ゆ。ぐ。ちくしく風治と
奉。一日の新ゆと沢すゝ

次ゝ仁ゆ。ゝうひい者ぬゆ。ゝ衡の
ゆ。ゝ分とりのふゆとやちぐ。ゝ今。
付沢ふ右大伝巳三位伝為永の三位伝巳三位
伝為永の新伝師良巳三位新漢国奥右新世雲新
永の新伝さねづぐ沢ハ美大為ゆ。巳三位
新伝為永巳三位新伝中納言伝為永の新伝河え
巳三位新伝中納言為永の新伝為永の新伝為永
三位為永新伝為永の為伝為永の新伝為永
為永新伝三位為永新伝沢為永中の為伝為永
の新伝新伝沢為永伝為永為永為の為伝為永の新伝
為永為永人間為永人為伝上新式ア。の大為伝為永
の新伝懐中おゆ。ゝうもぐ。板倉中ゆ。ゝ。ゝ。ゝ

やくゆとりぞうれんぐ如のごとくなるこそ
とうりしく寄立ぞうひもいし殺うかんく
の流のうちあるもやこのふ寄ろん地ーとおぶふ
ゆでやのてろ法都名の故縁法でみもい在ゆ返
もこば仮人ゆ悔ーざろくくも在とちうぐ寄法
やうく出起ぶるう筆こ事の天祇云云知。和
起ふたのこ相出ぬこひちうさハあのこ在
ぞうひらう寄ハちのたこのくく初時拾ゆおわや
のこうぐこ仮ぞう京起ふこ今あろん付法
ハこも素初ゆもぶのハひ在あのものぶ山ろ面
るのこ仮ゆハ百果ふいものくくこ事むのこ
かこ玉宝きのしあのゆうこ祇ぶ風もこ事ーわ
ぐんの調のうちこハ在祇ぶ感動ぞうくーでこ。
この寄立ふ法仏ゆくゆうくうぶ寄ぶ海法ぞう。連係
よハ出法ぶもふくゆうくうぶ寄ぶ法ハまれるゆ法
ぞうろう。とぷ今ひ出ぶふ初ふ寄ぶ寄ぶ寄ぶ
毎寄の出不仏ろぐこうこ事くーでぶーぷ。かこ大
こハ初の左法ゆうぞ事ふ一事の法乱法
ろくぷーみふ事初ゆもぬれハ方約安法の法ろふ

ぷーぷ法ふりぐの左仏とうひぐくくふ祇ぶめ
きこもむと寄ろのくろうくぶもこぐろ極ぶみの数
ぶうと感歌ー聖日午人初法ふハくゆもうち
きーうぶゆでぬーうーしぐ。ぐいーぷゆーさそも中
夜の法云くこ云ハ我初ふ初ふ無とぐろ寄ぶうふ
ろうくく毎夜天下ふ宇ろゆちうくくくくふゆ
ろーうとろとぐとぐくーうーぐくと一切出初ふく法ふ
とまつ寄ーうーぐくと一切出初ふく法ふ
初ゆれろうぐろふをて日二月廿八日西の刻ふ
数寄夜天寄西ろ寄ぐろうてとび初ろんこーふ。
聖二日廿九日申の刻ふ天ゆろうも初ぶこの天仮こ本
の切ゆもぐ法ぐろふ天天多法初て一時の庚法と
ろりふろりぶゆこうこけもハろ泉寄ろるゆふ法ふ
こふーてぷよひオこの拾拾ろれば御ふあぶ精
受集夜の法初ともふする大ぐんろるふ問ふ
ふてゆもこふーぐこの初母ふ法ふ法ふ法ふ
法ーもろぐもぶろうろ初ふ法ふ法ふ法ふ法ふ
ろぐこうー毒こ寄ぶもの法ぶ法ふ法ふ法ふ法ふ
よ初ぶるうろよつぷぐ天ろうーとぷ法ゆれど

をりたる紙の美紙なるを紙にてやはらかなる紙にてやはらかなる紙にてやはらかなる

まゐらんく思の中ふ日数とそせうもろ
▲[illegible]時討[illegible]ふとうぶ中
さう役ふ日八月十八日云[illegible]
[illegible]ふ作くわ他の人数とぞめされる。其
[illegible]ちうう十人京ちうう二人也。
[illegible]ちうんどの沙汰ふそれ他のたちふぬぎ
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

紀ゐのかたらざりろろふ光房のこれ一ん坊の
えちごの法紀ゑ房の三ん坊の
学室月輪房の同右衛門房十乗坊と如し
てむひとりの天ぐもしりかみ
やろろろ法の中へ面をもつぶいろ
てゐはゐをしんぼのえちごの法紀ハ面ろ
大乱のねるろ四ろ八すのちかとりうぐ
のひとりかくまろりもろふたがうし切を
らを物をこうくんこうもよりの格の法房
こぶ一人ふこうまろ一ぱとちろぐんぴあさ
ろんで如をろ。追ろうし追ろびを時ろうわじ
こうひろろふ山つのちゐこうじめハゐ
こをせこ勇をこるりろろるるるるるぐをこへしざりけ
ふぐ山法の法住中方のりゐちかもちかのころ
こここんこうろへ四法の門ろう迄へ〳〵根横を徴
よ如てまろうしぱゐ新の大ちかハ大ゐろうし
ひぐをこうひてぱの門ろう一乗大法へ四ゐの
風ふうぐまろぐぐ〳〵ふぐろるびさ出ろうろぐれ
ばゐ後のちかのよろ大ものよろ法ハ

てぱひとのちゐ〳〵ハハゐでちぐ〳〵とゐ〳〵てゐをを
ちをぐ山門方ゐをもをひゐまろこゐろまを
生の光ををとをりてこ法ゐんぐふゐをてぱこら
ちひころろこ法ゐ代表人の中ーけ也法ゐ
いふぱけ名家ハ法歌の中のもの〳〵玄圃荘ハの月の
ゐふハ新風のえすこまーしてーてギ光の法し
ぱしーぱ山海のゐをもををもろゐのとゐぐーぱ家の
ちぐ大臣も楽節ちぐ〳〵ゐをのいろふ
ケーてゐこれ法ゐふ中ゐろうさーもこれかどの強
新ろうーーえろろーぱ山ゐをもこゐぐをこゐ法
事をもの〳〵ぱをひ死人ぐりをーろ格さ色をと
ゐひこさろゐこ整ハ家をと没ゐこをちれてこい
ちろう法をぱゐ田ろ法ゐ法ゐこゐのををこをこ
やこれ朝家家の山紀天ゐの大こをころぷこうふ
ゐーーこ新ゐのゐこぐ法ちゐゐつをてこふ新の法新
ちんこちゐ田をすつんちぐをちれる

▲北軍三尼逃の事

加島中ゐ河の月三何のころろ山紀美ゐ中新
法ゐんゐ分ろんぐーて。寝ゐれちろろーぶーー

うぶ。ゆ。ゆ。ゆ

[illegible]

▲細川[illegible]

[illegible]

太平記ノ中板世ニ多ク行ハレ
[illegible]
諸家の秘本を[illegible]
て校合を遂け[illegible]

元禄拾壱年
戊寅 正月十一日

活陽書林等開板

下総国葛飾郡[illegible]